文部科学省
地(知)の拠点

平成25年～29年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

03

平成27年度
成果報告書

平成28年3月

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

平成25年～29年度 文部科学省
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

03

平成27年度
成果報告書

平成28年3月

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
平成27年度 報告書

《目　次》

ごあいさつ …… P 3
事業推進責任者　札幌市立大学 学長 蓮見 孝

Ⅰ.平成26年度のCOC事業評価
COC事業 評価部門 …… P 5

Ⅱ.事業概要
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要 …… P10
COC事業担当者　デザイン学部 教授 中原 宏

学内組織体制図／施設平面図 …… P12

Ⅲ.活動報告
0.活動履歴 …… P16

1.教育改革推進チーム …… P22

2.研究企画推進チーム …… P26

3.学び舎企画推進チーム
3.1〈SCUまちの教室〉班 …… P30
3.2〈SCUまちの談話室〉班 …… P34
3.3〈SCUまちの先生〉班 …… P38
3.4〈SCUまちの健康応援室〉班 …… P40

4.広報企画推進チーム …… P44

5. COC特任教員 …… P50

ごあいさつ

事業推進責任者
札幌市立大学 学長
蓮見 孝

この成果報告書は、札幌市立大学（SCU）が平成27年度に推進してきた文部科学省事業「COC（Center of Community）」の活動について報告するものです。文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」であるCOCは、大学と自治体が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を５年間にわたり支援するものです。SCUは、平成25年に公募されたCOCに札幌市と連携して申請し、全国319の大学提案の中から52事業の一つとして採択されました。３年目となる今年度のエポックは、旧真駒内緑小学校をリノベートして開設された連携・交流施設「まこまる」に、「COCキャンパス まちの学校」をオープンしたことです。

本年度も、「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」というテーマに込められた教育改革、研究企画、学び舎企画という３つの事業を、全教員が３チームにより推進してきました。

［教育改革］では、地域志向の教育をめざすCOCカリキュラムの整備に取り組みました。SCUはデザイン学部（D）と看護学部（N）の２学部からなっています。２つのキャンパスは15kmも離れていますが、SCUの特長としてきた＜D×N連携＞を更に強化し、両学部の全学生が履修する「スタートアップ演習」（１年次生対象）と、「学部連携演習」（３年次生対象）を、札幌市南区の10地区をフィールドとするPBL（問題解決）型授業として改編し実施しました。地域のみなさまから温かい支援・指導をいただきながら、大きな成果を上げることができました。学生による授業評価や地域からのコメントをもとに、授業のプロセスやアウトカムについて評価し、次年度の改善につなげていきます。また、27年度からは、「学部連携基礎論」（２年次生対象）と「地域プロジェクト」（新１年生対象を検討中）という新たな地域対象のPBL型授業を立ち上げ、地域志向の教育改革を強化していく予定です。

［研究企画］では、「COCリサーチ・共同研究」を年度初めに全教員を対象に募集し、３件の研究を採択しました。また平成26年度に、南区住民9000名を対象におこなった大規模アンケート調査の結果を有効にいかし、ウェルネス研究を継続して進めました。

［学び舎企画］では、５月に待望の「COCキャンパス まちの学校」がオープンし、「まちの教室」、「まちの談話室」、「まちの先生」、「まちの健康応援室」という４つのプログラムを立ち上げ、推進することができました。「まちの教室」では、教員の40%以上が、公開講座を実施し、オリンピック・パラリンピックをテーマにした公開講座もおこないました。札幌市が2026年の招致をめざす“オリ・パラ”の機運醸成をめざす活動を今後も積極的に開催していくことにしています。「まちの談話室」では、ハロウィーン、クリスマス会、ボードゲーム、お試しシェフなど、多世代がともに楽しめるイベントを、学生を推進役として企画実施しました。「まちの先生」では、６講座を開催しました。他組織が実施している「タウンゼミ」などとの連携も図り、定着をめざしていきます。「まちの健康応援室」には19名のボランティア登録がありました。１日平均３名弱の来室であり、かならずしも千客万来とはいえませんが、アウトリーチ活動（出前）も積極的におこないながら、大学による地域の健康支援事業を定着させていきたいと思います。

2016年度より、COCは、発展的に「COC＋」に移行しました。SCUは、室蘭工業大学が代表校となって推進されるCOC＋事業「ものづくり・人材」が拓く「まち・ひと・しごとづくり」の参加校として、COCに引き続き取り組んでいきます。多くの学生たちと多世代・多セクターのみなさんの学び合いの地域プラットフォームが形成されていくことを、心から期待しています。

I. 平成26年度のCOC事業評価

COC 事業　評価部門

【学内委員】

中村 惠子 札幌市立大学 副学長（評価部門長）

城間 祥之 札幌市立大学 デザイン研究科長

【学外委員】

細川 敏幸 北海道大学教育改革室／北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部 研究部長 教授

瀬戸口 剛 北海道大学工学研究院 建築都市空間デザイン部門 空間計画分野 教授

遠藤　滋 北海道立総合研究機構 連携推進担当理事

佐藤 正義 シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート（南区区民協議会）監事

元木　朗 札幌市市長政策室 改革推進部長

本事業では、学外委員も含む評価部門を設け、事業の推進状況の評価をおこなっている。
平成 26 年度の事業評価結果は「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」であった（右記参照）。

平成 27 年（2015 年）8 月 10 日

ＣＯＣ部門長（ＣＯＣ事業担当者）
中　原　　宏　様

ＣＯＣ評価部門長
中　村　惠　子

平成 26 年度「地（知）の拠点整備事業」の実施状況に関する評価結果について

平成 27 年 7 月 1 日に開催した平成 27 年度第 1 回「地（知）の拠点整備事業」評価部門会議におき、平成 26 年度の本事業実施状況を以下のとおり評価しましたのでご通知致します。

記

1　評価結果

平成 26 年度の本事業は、「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価する。

2　意見

以下の意見を参考に平成 27 年度 COC 事業を推進してください。

① 「概ね良好」であると評価するが、事業は 2 年目を迎え、部分的には更なる努力を要するものが見受けられる。

・地域との連携や、取組の成果に係る地域への還元が十分とは言えない。今後は COC キャンパスだけに留まらず、まちづくりセンター等も活用してはどうか。

・経費が計画通りに執行されておらず、赤字となっている。予算管理について、より一層の努力を要する。

・前年度と比較して地域志向科目数が増えておらず、進捗度合いに懸念を感じる。

・地域の幼・小・中学校の幼児・児童・生徒を対象にした公開講座について、「まちの寺子屋」としての特徴を出すべきである。

・高齢者ニーズ調査について、報告書の発行や報告会の開催だけではなく、その調査結果について地域住民の理解を深め、健康管理や日常生活等に活かしてもらうことがより重要である。また、その調査結果を本 COC 事業にどのように生かすのかが不明である。
更には、教員が活用しやすいものとするためには、データ加工や開示の工夫が必要なのではないか。

② 公立大学による最北の COC 事業として、北の特色を活かした冬の取組について検討を望む。

③ COC 事業に参加する学生に対し、例えば就職活動時に提示でき「COC 認定証」を発行するなど、学生に直接的なメリット（見える化）がある仕組みについて検討を望む。

④ 昨年度の本委員会において、定性的な成果指標を設定したほうが良いとの意見を出していたが、設定がなかった。COC 事業の成果をよりわかりやすく示すためにも、定性的な成果指標は設定して欲しい。

II. 事業概要

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業の概要

COC 事業担当者
デザイン学部 教授
中原 宏

本事業は、札幌市と連携し、廃校となった小学校の一部に地（知）の拠点「札幌市立大学COC キャンパス」を新設し、ここを多世代・多セクターが学び合う「学び舎」として整備し、「地域志向」の教育・研究・社会貢献活動を推進するものである。札幌市、とくに南区では少子高齢化が進み、コミュニティの再構築、地域の魅力ある顔づくり、高齢者のウェルネス支援が課題となっている。この課題解決に向けて、デザインと看護の専門性を有する本学が、ウェルネス支援や地域の活性化に貢献する人材を育成するなど、地域志向プロジェクトを地域住民と協働して展開する。あわせて、本学の学生が、真駒内COCキャンパスで地域の現状を体感し、課題を読み取り、解決策を提案する過程で、「専門性を実社会に活かす力」を獲得することを目指す。

平成27年５月より「まこまる」（旧真駒内緑小学校）内に本学COCキャンパス「まちの学校」が開設され、名実ともに本格的にCOC事業を推進した。平成27年度の主な事業の構成と、実績は以下のとおりである。

１.教育：異分野連携教育の拡充と地域志向の強化によるカリキュラム改革

本事業では、地域志向を有する人材育成を「COCカリキュラム」として、本学の教育カリキュラムに明確に位置付け、デザインと看護の異分野連携教育を拡充するとともに、「COC カリキュラム」を強化するため、以下のようなカリキュラム改革に取り組んでいる。

①地域志向科目の増強に向けた検討

本年度は、「学部連携基礎論」および「地域プロジェクト（昨年度までは「地域セミナー」の名称で検討）」の２科目の新たな増強科目の新設・実施に向け、具体的な授業実施計画の立案を行った。また、その内容を全教員と協議しながら修整し、実現可能な計画とすることを目指して活動を行った。さらに、これらの新科目と、従来から実施している「スタートアップ演習」「学部連携演習」との教育的な整合性を得るため、新科目実施に伴う授業内容と実施方法の検討を行った。

②地域志向科目のシラバスへの反映

2015年度シラバスの記載内容を分析し、本学の地域志向性科目の数と、配置状況について点検と分析を行った。本学の地域志向性科目は、COC事業開始より順調に増強されており、地域に関連した科目の数は既に予定数を上まわって、カリキュラム上に配置されている状況を確認した。次年度からは両学部で新カリキュラムによる教育が始まるが、新カリキュラムではより顕著な増強が見込まれる。

２.研究：ウェルネス×協奏型地域社会の構築に寄与する研究の推進

本事業では、対象地域の課題解決に寄与する、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究を「COC リサーチ」として位置づけ、以下の取組を行っている。

①ウェルネスサイエンス研究の推進

COCリサーチについては、全学教員を対象とする競争的研究資金（「地域志向」研究のための研究費補助制度）を平成25年度に「COC共同研究費」として創設し、積極的に支援することとした。平成27年度のCOCリサーチとしては3件の研究を採択するとともに、平成26年度のCOC研究成果報告書を発刊した。

②研究基盤の整備・研究関連調査

平成25年度に実施した「札幌市南区在住の65歳以上の高齢者の健康に関するニーズ調査」のアンケートデータをもとにしたウェルネス研究を実施し、事業全体の活動基礎資料として活用可能となる整備を行った。また、学内の教員が実施している「地域志向」の研究動向を実態調査した。

３.社会貢献：コミュニティ再構築等の地域課題の克服に寄与する社会貢献活動の展開

本事業では、対象地域の課題解決に寄与するウェ

ルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした社会貢献活動を「COCまちの学校」として位置づけ、これをさらに　①まちの教室　②まちの談話室　③まちの先生　④まちの健康応援室　の４事業に区分して全学的に展開している。

① まちの教室：

地域住民向けの公開講座・セミナー事業

本学の全教員が、積雪寒冷地の「まちづくり」や「ウェルネス」に関わるデザイン学・看護学の最先端の講義を地域住民に対して行うものである。平成27年度は公開講座計25企画、38回、大学院授業公開計３科目15回を実施した。

② まちの談話室：

多世代・多セクターの交流事業

地域の人々のウェルネス(健康で、楽しく、生きがいがもてる状態)を創出する場を設定するとともに、各種事業やイベントを開催し、大学と地域との交流を深めるものである。

平成27年度から「まこまる」内に開設された「コミュニティカフェ」の支援として、「お試しシェフ」を３回開催した。また、持ち寄り図書（貸出可）と書架、テーブル、イスを整備し、図書コーナーを設置した。さらに、市民交流を促進するため、本学教員、学生によるゲームや遊びによるイベントを展開した。

③ まちの先生：

地域住民が主役となる生涯学習事業

専門知識・技能を有する地域住民が講師となって地域住民の生涯学習を担う事業である。平成27年度は、市民３名と本学教員（まちの先生班メンバー３名）による「まちの先生」運営委員会を立ち上げ、委員会を毎月開催するとともに、講師となる住民の企画募集と、「まちの先生」の夏季・秋季・冬季講座を計10講座を開講した。

次年度以降「まちの先生」運営委員会の体制を確立し、市民構成員による自立した運営に向けた準備をする予定である。

④まちの健康応援室：

地域住民の気軽な健康相談の場所

看護学部を有する本学の特徴を活かした地域住民への交流事業として、地域住民の健康に関する相談、助言を行う「まちの健康応援室」を平成27年10月に開設した。本学看護学部教員と、保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの専門資格をもつ有資格ボランティアの協働によって相談への対応体制をつくり、地域住民の相談や健康チェックに当たっている。

４．広報・記録活動

COC広報企画推進チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げる支援を目的としたチームである。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を目的とする。

平成27年度の具体的な活動としては以下の取組を行った。

①催事イベント運営
②広報活動（案内ポスター、リーフレット等の制作）
③COC Webサイトの管理・更新
④映像記録撮影
⑤COCキャンパス内のサインデザイン
⑥平成27年度COC事業報告書の作成・発刊

５．COC事業推進のための仕組

事業推進組織は過年度同様、平成27年度も本学の教職員が一体となって取り組む全学体制としている。とくに教育改革を担う教育改革推進チームについては、全学委員会である教務・学生連絡会議や、両学部の教務委員会メンバーと一致するよう人員配置を行った。また、２名のCOC特任教員と３名の臨時職員の体制でCOC事務局を運営している。

COC評価部門（構成：学内委員２名、学外委員５名）による平成26年度COC事業にかかる事業評価については、平成27年７月に実施し、「概ね良好、ほぼ計画どおり実施されている」と評価された。

さらに、本事業を円滑に進めていくため、札幌市の関係部課長、地域住民と大学が協議、情報交換を行う「COC 連絡会議」を設置し、定期的に意見交換を行うこととし、札幌市と地域住民、本学の連携・協力を維持・強化していく体制としている。s

COC学内組織体制2015

COC推進会議

議長：蓮見学長

メンバー：中村副学長、酒井デザイン学部長、樋之津看護学部長、城間デザイン研究科長、上遠野地域連携研究センター長、山本附属図書館長、大古事務局長、中原COC部門長（事業担当者）

事業評価部門

中村副学長（事業評価部門長）、城間研究科長D、細川北大教授、瀬戸口北大教授、遠藤道総研理事、佐藤シーニックバイウェイ藻岩定山渓監事、元木札幌市改革推進部長

全教職員の参加により推進

学内委員会

- ◇教務・学生連絡会議
  - ・D教務委員会
  - ・N教務委員会
  - ・D学生支援委員会
  - ・N学生支援委員会
- ◇地域連携研究センター
- ◇図書館運営会議
- ◇FD委員会
- ◇倫理委員会
- ◇総務委員会

事務局

- ◇総務課
- ◇経営企画課
- ◇地域連携課
- ◇学生課
- ◇桑園事務室

COC事務局

- ○龍山COC臨時職員
- ○高橋COC臨時職員
- ○佐藤COC臨時職員

COC企画・推進グループ

幹事会

COC部門長(事業担当者)：中原教授D

- ●酒井教授D
- ●樋之津教授N
- ●吉田(和)教授D
- ●スーディ神崎教授N
- ◉細谷教授D
- ◉河原田教授N
- ◉斉藤(雅)准教授D
- ◉貝谷准教授N
- ◉柿山准教授D
- ◉上田地域連携課長A
- ◉東館総務課長A
- ◎菊地准教授N
- ◎金子助教D
- ◎清水准教授N
- ◎大山経営企画係長A
- ○籔谷特任助教
- ○中田特任助教

（相談役　蓮見学長、大古事務局長）

● チームリーダー
◉ 代表幹事（チームサブリーダー+班長）
◎ 幹事（班長）
○ メンバー

教育改革推進チーム

「COCカリキュラム」の企画・推進

●樋之津教授N

- ◉細谷教授D
- ◉河原田教授N
- ○原教授D
- ○定廣教授N
- ○町田教授D
- ○上村准教授N
- ○古都准教授N
- ○山本(真)講師N
- ○柏倉助教N
- ○星助手N

連 携

教務・学生連絡会議
- デザイン学部教務委員会
- 看護学部教務委員会

- ○籔谷特任助教
- ○中田特任助教
- ○事務局

研究企画推進チーム

「COCリサーチ」の企画・推進

●スーディ神崎教授N

- ○山田准教授D
- ◉貝谷准教授N
- ○石井教授D
- ○渡邉准教授N
- ○矢部教授D
- ○村松准教授N
- ○張准教授D
- ○神島講師N
- ○山内講師N
- ○檜山助教N
- ○御厩助手N

- ○籔谷特任助教
- ○中田特任助教
- ○事務局

学び舎企画推進チーム

「SCUまちの学校」の企画・推進

●酒井教授D

<SCUまちの教室>班
- ◉斉藤(雅)准教授D
- ○松浦教授N
- ○吉田(恵)教授D
- ○菅原准教授N
- ○松井講師D
- ○守村准教授N
- ○三谷講師D
- ○森川講師N
- ○櫻井講師N

<SCUまちの談話室>班
- ○羽深教授D
- ◎清水准教授N
- ○武田准教授D
- ○大野准教授N
- ○片山講師D
- ○藤井講師N
- ○小宮講師D
- ○矢野講師N
- ○福田講師D
- ○田仲助教N

<SCUまちの先生>班
- ◎金子助教D
- ○川村教授N
- ○石崎教授D
- ○工藤講師N
- ○上田講師D
- ○小田嶋助教N
- ○杉本講師D
- ○横川助手N

<SCUまちの健康応援室>班
- ○齋藤(利)教授D
- ◎菊地准教授N
- ○松永講師D
- ○小田教授N
- ○原井講師N
- ○坂東助教N
- ○近藤助教N

- ○籔谷特任助教
- ○中田特任助教
- ○事務局

広報企画推進チーム

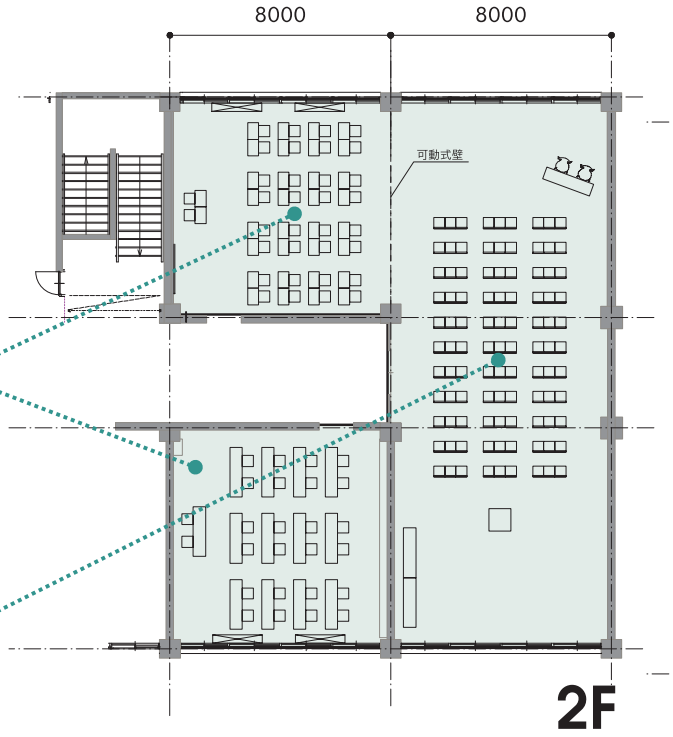
COC事業の広報企画・推進

●吉田(和)教授D

- ◉柿山准教授D
- ○宮﨑教授N
- ○安齋教授D
- ○猪股教授N
- ○大渕講師D
- ○三上講師N
- ○石田講師D
- ○田中講師N
- ○須之内助教D
- ○石引助教N

- ○籔谷特任助教
- ○中田特任助教
- ○事務局

札幌市立大学COCキャンパス「まちの学校」
施設平面図



SCU A組・B組まちの教室

大学の公開講座や授業公開、まちの人が先生になるプロジェクト「まちの先生」の講座等、小学校の教室をそのまま活かした学びの場です。

SCUまちの講堂

フォーラムなど、大人数が集まるイベントを開催できる大きな部屋です。

SCUまちの図書室・談話室

地域の人々と学生の交流の場。学生が場のデザイン・企画・運営を行い、誰もが気軽に立ち寄ることができる場を目指します。

SCUまちの健康応援室

地域の人々が気軽に健康相談に来ることができる場所。看護教員やボランティアスタッフに、悩みごとや健康に関する相談ができます。

SCUまちの職員室

COC事務局職員が常駐しています。

SCUまちのホームルーム

地域活動を行う学生のためのまちなか活動拠点。学生が作業や打ち合わせを行うことができ、ここを拠点に様々なプロジェクトを展開していきます。

III. 活動報告

0. 活動履歴

●4月

2日 学び舎・まちの談話室 第1回班会議
6日 ガイダンスでCOC概略説明
8日 第1回COC推進会議
　教育・第1回チーム会議
9日 スタートアップ演習（第1回）オリエンテーションにおいて
　COC概略説明・COC STUDENT PLAZAの案内
14日 学び舎・まちの談話室　第2回班会議
　広報・第1回チーム会議
16日 スタートアップ演習（第2回）
17日 学び舎・まちの先生グループ会議
20日 学び舎・（仮称）SCUまちの保健室WG会議（第1回班会議）
21日 COC共同研究費・着任教員募集締切
　学び舎・SCUまちの先生 第1回班会議
第1回まちの先生運営会議
22日 研究・第1回チーム会議
23日 スタートアップ演習（第3回）
24日 学び舎・第1回チームリーダー班長会議
28日 第1回COC幹事会
30日 スタートアップ演習（第4回）

●5月

7日 スタートアップ演習（第5回）エクスカーション
8日 第2回COC推進会議
9日 オープニングイベント「まちの学校にあつまれ！」
　オープニングセレモニー／キャンパス見学ツアー／学生企画・みなみの劇場「table talk theater」／
　「南区いきいきプロジェクト」学部連携演習成果発表会・パネル展示／
　研究ニーズ調査報告パネル展示／まちの先生講座「今に活きる歴史と伝統の創る世界」（講師：角氏）／
　まちの教室公開講座『「都市の時代」から「地域の時代」へ』（講師：蓮見学長）
　まちの保健室プレ開室／もちより図書コーナーオープン
　学び舎・第１回まち先生運営委員会
12日 学び舎・（仮称）SCUまちの保健室WG会議（第2回班会議）
　学び舎・まちの先生 第2回班会議
13日 教育・第2回チーム会議
14日 スタートアップ演習（第6回）
　まちの教室公開講座『真駒内駅花いっぱい花壇づくり』真駒内駅前花壇（講師：吉田(恵)教授）
18日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」（講師：蓮見学長）
19日 COC共同研究費審査会
21日 スタートアップ演習（第7回）
22日 第2回COC幹事会
23日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」（講師：蓮見学長）
26日 研究・第2回チーム会議
28日 スタートアップ演習（第8回）

●6月

1日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」(講師：蓮見学長)
3日 第3回COC推進会議
第2回まちの先生運営委員会
4日 学び舎・まちの先生 第3回班会議
6日「カフェまこまる」運営ミーティング
8日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」(講師：蓮見学長)
10日 教育・第3回チーム会議
11日 COC学内組織新体制発令
スタートアップ演習(第9回)
12日 学び舎・まちの保健室　第3回班会議
15日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」(講師：蓮見学長)
18日 スタートアップ演習(第10回)
平成27年度COC共同研究審査会
21日 まちの教室公開講座(共催)『WRO競技会講習会(1)』(講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会)
22日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」(講師：蓮見学長)
24日 研究・第3回チーム会議
学び舎・第2回チームリーダー班長会議
25日 第3回COC幹事会
スタートアップ演習(第11回)
27日 まちの教室公開講座(共催)『親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」』(講師：三谷講師 他)
「カフェまこまる」運営ミーティング
28日 カフェまこまるワンディシェフ(スタートアップ演習グループ)
29日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」(講師：蓮見学長)
30日 学び舎・まちの談話室 第3回班会議

●7月

1日 COC評価部門会議
第4回COC推進会議
平成27年度COC共同研究費採択結果通知
第3回まちの先生運営委員会
2日 スタートアップ演習(第12回)
4日 まちの教室公開講座『昆虫のデザイン』(講師：酒井教授)
5日 まちの教室公開講座『WRO競技会講習会(2)』(講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会)
7日 学び舎・まちの先生 第4回班会議
教育・第4回チーム会議
9日 スタートアップ演習(第13回)
12日 まちの教室公開講座(共催)『WRO競技会講習会(3)』(講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会)
14日 学び舎・SCUまちの保健室　第4回班会議
16日 スタートアップ演習(第14回)活動報告会・展示(～23日まで)
学び舎・第3回チームリーダー・班長会議
18日 まちの先生講座「ウーブレック～科学者は何をする人なの？」(講師：平松 氏)
20日 まちの教室公開講座(共催)『「風の子Go!Go!」in Coミドリ』(講師：小宮講師)
22日 第4回COC幹事会
研究・平成26年度COC共同研究費研究成果報告書発行
研究・第4回チーム会議
23日 スタートアップ演習(第15回)
26日 まちの教室公開講座(共催)『WRO競技会講習会(4)』マイコンレーサー初級講習会
(講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会)
28日 (仮称)まちの保健室ボランティア募集説明会(1回目)
31日 (仮称)まちの保健室ボランティア募集説明会(2回目)

学び舎・まちの談話室 第4回班会議
学び舎・第4回チームリーダー・班長会議

● 8月

1日 まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（5）』（～2日）（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
7日 学び舎・第5回まちの健康応援室班会議（旧：まちの保健室班）
8日 まちの教室公開講座（共催）
『Connekid! inそらのガーデン2015「風の子Go!Go!」』（講師：小宮講師）
11日 まちの教室・大学院授業公開「デザイン特論」発表会（講師：蓮見学長）
16日 まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（6）』WRO札幌大会
（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
22日 札幌市立大学公開講座『まこまるミニシアター』（講師：武田准教授）
まちの教室公開講座『メカトロ教室・ロボットカーを走らせよう』（講師：三谷講師）
まこまるカフェミーティング

● 9月

2日 第5回COC推進会議
第4回まちの先生運営委員会
3日 まちの健康応援室 ボランティア講習会
4日 学び舎・まちの談話室 第5回班会議
8日 学び舎・まちの教室 第1回班会議
9日 学び舎・まちの先生 第5回班会議
11日 教育・第5回チーム会議
12日 まちの談話室企画・お試しシェフ「みなみ区づくしのとっておきカレー」
14日 学び舎・第5回チームリーダー・班長会議
16日 学び舎・まちの健康応援室 第6回班会議
25日 まちの先生企画・全学FD／講演会「地域間連携による、多世代コミュニティづくり」（講師：堀内氏）
28日 第5回COC幹事会
29日 学部連携演習（第1回）ガイダンス
30日 まちの健康応援室開室
南区健康まつりに参加
研究・第5回チーム会議

● 10月

1日 まこまるカフェミーティング
2日 学び舎・まちの談話室 第6回班会議
6日 学部連携演習（第2回）
7日 第6回COC推進会議
教育・第6回チーム会議
第5回まちの先生運営委員会
13日 学部連携演習（第3回）
14日 学び舎・まちの健康応援室 第7回班会議
16日 学び舎・まちの教室 第2回班会議
16日 まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（7）』（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
19日 学び舎・第6回チームリーダー・班長会議
学び舎・まちの先生 第6回班会議
20日 学部連携演習（第4回）フィールドワーク
23日 第6回COC幹事会
24日 まちの先生講座「若さの秘訣はお口から」（講師：津金澤 氏）

25日　まちの教室公開講座『すこやかに生ききるための知恵（第1回）』（講師：村松准教授・法邑氏）
26日　まちの教室公開講座『シミュレーション教育の先進的施設の紹介』（講師：村松准教授・三谷講師）
27日　学部連携演習（第5回）
28日　研究・第6回チーム会議
31日　まちの談話室班企画・お試しシェフ「まこまるアヒージョ里の恵み」
　　まちの談話室企画「Trick or Escape ～オバケからの挑戦状」

●11月

4日　第7回COC推進会議
　　教育・第7回チーム会議
　　第6回まちの先生運営委員会
5日　まこまるカフェミーティング
7日　学部連携演習（第6回）
　　まちの先生講座「リノベーションやセルフビルドによる居場所づくり」（講師：三木氏・佐藤(圭)氏）
9日　学び舎・まちの先生 第7回班会議
10日　学部連携演習（第7回）フィールドワーク（第2回）
11日　学び舎・まちの談話室 第7回班会議
13日　学び舎・まちの教室 第3回班会議
16日　学び舎・第7回チームリーダー・班長会議
　　学び舎・まちの健康応援室　第8回班会議
17日　学部連携演習（第8回）
　　まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」（講師：斉藤(雅)准教授）
16日　まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（8）』（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
20日　第7回COC幹事会
22日　まちの教室公開講座『すこやかに生ききるための知恵（第2回）』（講師：村松准教授・法邑氏）
24日　まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」（講師：斉藤(雅)准教授）
25日　研究・SCU産学官研究交流会にてCOC事業成果を発表
26日　研究・第7回チーム会議
27日　まちの教室・大学院授業公開『地域創成デザイン特別セミナーB』（講師：酒井教授）
28日　まちの教室公開講座『少量の飲酒は本当に健康によいのか？』（講師：藤井講師・大西氏）

●12月

1日　COCキャンパス開館時間変更（10：00-17：00）
　　まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」（講師：斉藤(雅)准教授）
　　学び舎・まちの談話室 第8回班会議
2日　第8回COC推進会議
　　教育・第8回チーム会議
　　第7回まちの先生運営委員会
3日　まこまるカフェミーティング
4日　展示・「学び舎」で考える障がい者アート展 開始（～26日）
5日　まちの教室公開講座
　　『学び舎で考える、障がい者アートから地域創生へ』（講師：上遠野教授・卜部氏・加納氏）
8日　まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」（講師：斉藤(雅)准教授）
9日　学び舎・まちの先生第8回班会議
11日　学び舎・まちの教室 第4回班会議
14日　学び舎・第8回チームリーダー・班長会議
15日　まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」（講師：斉藤(雅)准教授）
　　まちの健康応援室ボランティアミーティング
　　学び舎・まちの健康応援室 第9回班会議
17日　第8回COC幹事会

まこまるカフェミーティング
19日 まちの教室公開講座『昆虫のデザインPart Ⅱ』(講師：酒井教授)
まちの談話室企画「ボードゲームの世界に触れよう！の会」
20日 まちの談話室企画・学生お試しシェフ「カフェまこまるのクリスマス会」
22日 学部連携演習（第9回）
まちの教室・大学院教室授業公開「建築環境学特論」(講師：斉藤(雅)准教授)

●1月

5日 学部連携演習（第10回）
6日 第9回COC推進会議
教育・第9回チーム会議
まちの教室公開講座『老活ゼミナール（1）』(講師：田中講師・村松准教授・田頭氏)
第8回まちの先生運営委員会
9日 まちの教室公開講座『メカトロ教室・ロボットカーを走らせよう！』(講師：三谷講師)
まちの教室公開講座『老活ゼミナール（2）』(講師：田中講師・村松准教授・田頭氏)
12日 学部連携演習（第11回）発表会・展示（～29日まで）
13日 学び舎・まちの先生 第9回班会議
まちの教室公開講座（合同）『おもちの季節ののどつまりの予防、すばやい発見と対応』
（講師：松浦教授・上村准教授・三上講師・柏倉助教 他）
14日 まこまるカフェミーティング
15日 学び舎・まちの談話室 第9回班会議
学び舎・まちの教室 第5回班会議
学び舎・第9回チームリーダー・班長会議
18日 学び舎・まちの健康応援室 第10回班会議
19日 まちの教室・大学院授業公開「建築環境学特論」発表会（講師：斉藤(雅)准教授）
21日 第9回COC幹事会
27日 出張まちの健康応援室（藤野地区）
研究・第8回チーム会議
28日 広報・第2回チーム会議
30日 まちの教室公開講座『手で描く、手で創るデザイン』(講師：石崎教授)

●2月

3日 第10回COC推進会議
教育・第10回チーム会議
第9回まちの先生運営委員会
8日 学び舎・まちの健康応援室 第11回班会議
学び舎・まちの先生 第10回班会議
9日 学び舎・まちの談話室 第10回班会議
第10回まちの先生運営委員会
16日 学び舎・第10回チームリーダー・班長会議
19日 まちの教室公開講座『南区の人口減少とその将来を考える』(講師：原教授)
20日 まちの談話室企画「まこまるばくりっこ掲示板」開始
まちの先生講座「地球環境を考えた、冬暖かく夏涼しいお部屋づくりのポイント」(講師：佐藤(千)氏)
26日 第10回COC幹事会
27日「まこ×まち2016」・「2015年度COC成果発表会 まちの学校で まなぼう！」
地域を考える、札幌と小樽～2大学COC合同発表会～
札幌市立大学「南区いきいきプロジェクト」成果報告会＆展示会
小樽商科大学講演「小樽における竹鶴政孝とリタ」(講師：高野学術研究員)
まちの教室公開講座『北海道の建築の魅力』(講師：金子助教) ／
まちの教室公開講座『冬場に多い高齢者の救急疾患とセルフトリアージ』(講師：菅原准教授) ／

学生企画「ゆる体操をはじめよう」／まちの先生「報告会・次年度の予定」／
まちの先生講座「三味線の音色にのって北海道・日本の民謡を楽しむ（1）」（講師：佐藤（裕）氏）／
地域に関する研究成果のパネル展示／まちの健康応援室 開室／地域交流イベントの紹介
27･28日「全国ネットワーク化事業 平成27年度COC/COC＋全国シンポジウム」参加
（担当：中田特任助教・上田地域連携課長）

●3月

1日 まちの教室公開講座（ちえりあ合同）『札幌市の文化財建造物をたどる〈冬〉（1）』（講師：羽深教授）
2日 第11回COC推進会議
出張まちの健康応援室（藻岩地区）
教育・第11回チーム会議
学び舎・まちの先生 第11回班会議
3日 まこまるカフェミーティング
4日 まちの教室公開講座『「風と共に去りぬ」とアメリカ南部社会（1）』（講師：松井講師）
まちの先生講座「三味線の音色にのって北海道・日本の民謡を楽しむ（2）」（講師：佐藤（裕））
5日 まちの教室公開講座『コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える（1）』（講師：籔谷特任助教・植田氏）
まちの先生講座「口からいつまでも美味しく食べるための健口体操」（講師：源間氏）
8日 まちの教室公開講座（ちえりあ合同）『札幌市の文化財建造物をたどる〈冬〉（2）』（講師：羽深教授）
9日 まちの健康応援室ボランティアミーティング
学び舎・まちの健康応援室 第12回班会議
12日 まちの教室公開講座（合同）『事前指示書の意味と書き方』（講師：スーディ神崎教授）
13日 まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（9）』（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
17日 学び舎・まちの談話室 第11回班会議
第11回まちの先生運営委員会
18日 学び舎・第11回チームリーダー班長会議
まちの教室公開講座『「風と共に去りぬ」とアメリカ南部社会（2）』（講師：松井講師）
21日 まちの教室公開講座（共催）『WRO競技会講習会（10）・（11）』（講師：三谷講師・北海道ロボット教育推進会）
22日 第11回COC幹事会
23日 研究・第9回チーム会議
24日 まこまるカフェミーティング
25日 まちの先生講座「春のストレッチ体操」（講師：高羅氏）
26日 まちの先生講座「札幌軟石のある暮らし」（講師：小原氏）
まちの教室公開講座『コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える（2）』（講師：籔谷特任助教・植田氏）
28日 まちの教室公開講座『ユニバーサルツーリズム都市札幌を考える』（講師：酒井教授）

教　育＝教育改革推進チーム
研　究＝研究企画推進チーム
学び舎＝学び舎企画推進チーム
広　報＝広報企画推進チーム

1.教育改革推進チーム

チームリーダー：樋之 津淳子
代表幹事：細谷 多聞・河原田まり子
メンバー：【デザイン学部】原 俊彦・町田 佳世子
【看護学部】定廣 和香子・古都 昌子・上村 浩太・山本 真由美・柏倉 大作・星 幸江

Ⅰ　本チームの平成27年度の事業概要・目的

本チームは、COCの関連するカリキュラムの編成を目指し、「地域志向科目の増強に向けた検討」と「地域志向科目のシラバスへの反映」の２点を目的として活動を行っている。本年度は、従来科目（スタートアップ演習、学部連携演習）の実施状況と演習の教育効果を点検するとともに、増強を予定する地域志向科目との関連を計画する。

Ⅱ　本班の平成27年度の役割

地域志向を有する人材育成を、本学の教育カリキュラムに明確に位置付け、それに伴って増強科目を新たに設置することが本チームの役割である。本年度は特に、「地域プロジェクト」と「学部連携基礎論」の２科目を、平成28年度から開始する新カリキュラムに組み入れることが求められた。

Ⅲ　平成27年度の活動

１.事業計画

昨年度の活動から、学内における地域志向科目の位置付けや意味について、全教員からの意見を集約することができた。そこで本年度は、「学部連携基礎論」、および「地域プロジェクト」の２科目の新たな増強科目の実施に向け、具体的な授業実施計画の立案を行い、その内容を全教員と協議しながら修整し、実現可能な計画とすることを目指して活動を行う。また、これらの新科目と、従来から実施している「スタートアップ演習」「学部連携演習」との教育的な整合性を得るため、新科目実施に伴う授業内容と実施方法の検討を行う。

２.主な活動

１）地域志向カリキュラムの検討

【地域プロジェクト】

当初「地域セミナー」とした演習授業は、今年度、地域で行う教員プロジェクトや、学生が企画運営する地域イベントの活動を単位化する方針で検討と試行を行ってきた。この中で、その特性から、４年間を通した開講が望ましいこと（当初案は４年次科目）や、単位認定科目としての位置付け等、カリキュラム運用における課題も明らかになった。これらをふまえ、科目名を「地域プロジェクト」自由科目（２単位）と定めると共に、授業の序盤において地域活動の意義や留意点についてのイントロダクションや、本学の取り組み事例を学ぶ内容を用意した上で、受講年度に実施するプロジェクト活動に加わる授業方法を見出した。2016年度の１年生以降が受講対象者となるが、在学中に同様の科目を追加で単位取得できる方法については、引き続き検討を行う（**図１：教育のプロセス**）。

【学部連携基礎論】

学部連携基礎論は、両学部２年次開講必修科目として設定する方針で検討を行った。この検討を通して、３年次の従来科目「学部連携演習」の基礎となる講義内容を含み、より深い地域学習を行う準備を行う授業に位置付けることとした。また、両学部の教育内容を活かし、教育の特色をより明確化した上で学部連携演習に結びつけるために、授業の前半では連携の意義や実践例の講義を行い、後半ではそれぞれの学部で専門性を持った見地からグループに分かれて地域調査を行う構成を考案した。授業の最終回には、各々のグループが調査結果を発表し、次年度のプロジェクト学習（学部連携演習）の基礎資料とする（**図１：教育のプロセス**）。

【地域志向性科目の点検・分析】

平成27年度シラバスの記載内容を分析し、本学の地域志向性科目の数と、配置状況について点検と分析を行った。本学の地域志向性科目は、COC事業開始より順調に増強されており、地域に関連した科目の数は既に予定数を上まわって、カリキュラム上に配置されている状況を確認した。次年度からは両学部で新しいカリキュラムでの教育が始まるが、新カリキュラムではより顕著な増強が見込まれる。

２）連携科目における南区課題への取り組み

【スタートアップ演習】

平成27年度は、昨年度から始まった教育改革プログ

ラム試行の第２段階として「D×N（デザインと看護）の連携」をテーマに、COC担当教員・事務局、教務課、総務課職員の協力を得て４回目に３コースに分かれ、南区各地に学生・教員チームを派遣、「D×N連携」「地域に親しむ」を活かしたプロジェクト活動を企画・実施し、その成果をスカイウェイでのポスターセッション・展示、最終報告会でのプレゼンテーション、大学祭で一般に向け展示した。学生：171名（うちデザイン学部89名、看護学部82名）、演習担当教員：デザイン学部10名（うち共通教育３名、COC特任教員１名）、看護学部10名（うちCOC特任教員１名）。

【学部連携演習】

平成26年度の実施方法を踏襲し、札幌市南区の10地区を対象とした演習授業を行った。それぞれの地区は、デザイン学部と看護学部の学生17～19名、および両学部の教員が１名担当し、「デザインと看護の連携」および「地域課題の発見と提案」を目指したプロジェクト学習を行った。演習期間中には２回の現地調査を行い、最終回の授業では、昨年と同様、本学で公開発表会を実施した。受講者数179名：デザイン学部85名、看護学部94名、演習担当教員：デザイン学部10名（うちCOC担当１名）、看護学部10名（うちCOC担当１名）。

学部連携演習発表会（平成28年１月12日）

図１：教育のプロセス

3）連携科目の授業内容の検証

【スタートアップ演習】

演習最終日に教育改革チームにより学生に調査票を配布、回収した。【問２】演習を通してどの程度到達できたか。１）地域との連携「地域（あるいは南区）への関心を深める」に対し、エクスカーションやプロジェクトを通じての間接的な体験に過ぎないが、各項目とも「できた＋まあできた」が80 ～ 90%との回答を得た（表１）。

無記名自記式質問紙：対象者171名、回収数129部（回収率75.4%）、有効回答数128部。内訳：デザイン学部65名、看護学部59名、学部記載なし４部。集計方法：４件法で回答。「できた」「ほぼできた」の回答を「できた」と集計した。

【学部連携演習】

学部連携演習の授業内容の検証は、昨年度（平成26年度）分に対して行った。演習受講学生数190名から有効回答数166部で検証した「到達目標の達成度」（表２）では、一昨年度に行った調査に比べて全ての項目で、到達目標に対する達成度の向上が見られた。また、演習の中盤に行った同様の調査結果と照合すると、ほぼ全ての項目において、演習終了後に目標達成を自覚できている様子が観察できる。これらの結果は、COC初年度の取り組みから、授業内容や運営方法を改善、再構築した成果であると考える。

３.評価

「学部連携基礎論」と「地域プロジェクト」の２科目について、目標とした具体的な授業実施計画の立案を行い、地域志向性科目の新規増強科目として現実的な実施準備を整えることができた。また、これに関連して従来科目である「スタートアップ演習」と「学部連携演習」との整合性を得るため、各々の授業内容を改変する計画を立てることができた。事業の点検評価については、昨年度に引き続き、教育内容の改善状況の確認やシラバスの点検を行い、教育改革が順調に行われていることを確認した。これらのことから、本年度の事業目標は達成できたと考える。

Ⅳ　今後の課題

平成28年度は、「地域プロジェクト」実施の初年度となる。授業内容については準備ができたものの、実施に際しては地域との折衝等、運用上の課題が発生することは避けられないと考える。また、平成29年度開始の「学部連携基礎論」についても、限りのある中での教員数の配置や、成績評価の方法等、検討すべき実務課題は残されている。来年度以降は、こうした課題の解決に取り組むと共に、教育改革の全体像の中で「地域志向性科目」の関連性を明確化することや、COC事業における教育の位置付けを着実に進めていきたい。

表１　スタートアップ演習のアンケート集計結果（平成 26 年度）

	全体（n=128）	デザイン学部（n=65）	看護学部（n=59）
1　地域（あるいは南区）への関心を深める	116(90.6)	57(87.7)	55(93.2)
2　地域の情報を収集する	107(83.6)	53(81.5)	50(84.7)
3　地域から何らかのプロジェクトのヒントを発見する	106(82.8)	51(78.5)	53(89.8)
4　発見に基づいて、プロジェクトのテーマを明確化する。	112(87.5)	53(81.5)	55(93.2)
5　テーマに基づいた地域におけるプロジェクトの目標を設定する	109(85.2)	53(81.5)	52(88.1)
6　目標を達成するためのプロジェクトを計画あるいは実施する	118(92.2)	57(87.7)	57(96.6)
7　プロジェクト活動の一連のプロセスを評価する	115(89.8)	54(83.1)	57(96.6)
8　デザインと看護の専門性の共通点と相違点に関心を持つ	109(85.2)	50(76.9)	55(93.2)
9　両学部の連携によりプロジェクト活動に取り組む意義がわかる	107(83.6)	53(81.5)	50(84.7)
10　プロジェクト活動を通じてデザインと看護の交流を深める	109(85.2)	50(76.9)	55(93.2)
11　プロジェクト活動を通じて役割を分担する	118(92.2)	58(89.2)	56(94.9)
12　一連の活動を通じて満足感あるいは達成感を持つ	116(90.6)	57(87.7)	55(93.2)
平　　均	112(87.5)	54(83.1)	54(91.5)

※各項目の数値は「達成できた」と回答した学生数と割合を示している．有効回答率74.9%（n＝128）

表２　学部連携演習の到達目標の達成度（平成 26 年度）

関連する到達目標		平成26年度		平成25年度
		中間評価 n＝166	最終評価 n＝166	最終評価 n＝171
1	課題解決プロセスの構成要素を述べる（ミニレクチャー）	138（83.1）	148（89.2）	141（82.5）
2	南区の人々が生活する地域の情報をアセスメントポイントに沿って収集する	153(92.2)	152（91.6）	147（86.0）
3	収集した情報に基づき、デザインと看護が連携して取り組むことが可能な地域の課題（連携課題）を発見する	147(88.6)	152（90.5）	137（80.1）
4	検討結果に基づき、連携課題（テーマ）を明確化、焦点化する	137(82.5)	155（93.4）	139（81.3）
5	明確化・焦点化した連携問題を解決するための目標（成果）を設定する	121(72.9)	146（88.0）	128（74.9）
6	目標を達成するための計画を立案（企画）する	78(47.0)	145（87.3）	122（71.3）
7	計画を実施する（成果を算出する）	54(32.5)	151（91.0）	137（80.1）
8	実施過程で直面した問題を分析する	67(40.4)	144（86.7）	129（75.4）
9	問題を克服するための効果的な方法を提案する	58(35.0)	131（78.9）	116（67.8）
10	課題解決に向けて、作業をすすんで担当する	110(66.3)	151（91.0）	130（76.0）
11	グループメンバーの意見を傾聴する	150（90.4）	155（93.4）	165（96.5）
12	自分の意見を相手にわかりやすく伝える	120（72.3）	131（78.9）	131（76.6）
13	グループメンバーの意見を調整し、合意を形成する	91（54.8）	130（78.3）	106（62.0）
14	それぞれの領域・専門性を超えて、自らの役割を見いだす	106（63.9）	149（89.8）	144（84.2）
平均値		109.3(65.8)	145.6(87.7)	133（78.1）

※各項目の数値は「達成できた」と回答した人数と割合を示している

2. 研究企画推進チーム

チームリーダー：スーディ 神崎 和代
代表幹事：貝谷 敏子
メンバー：【デザイン学部】矢部 和夫・石井 雅博・山田 良・張 浦華
【看護学部】村松 真澄・神島 滋子・山内まゆみ・渡邊 由香利・檜山 明子・（御厩 美登里）

Ⅰ　本チームの平成27年度の事業概要・目的

地域課題の解決に寄与し、ウェルネス×協奏型地域社会の構築を目的とした研究「COCリサーチ」の企画・推進を図る。

Ⅱ　本チームの平成27年度の役割

1）ウェルネスサイエンス研究推進

地域課題の解決に寄与する研究「COCリサーチ共同研究」の採択を行い、「地域志向」の研究推進を図る。

2）研究基盤の整備・研究関連調査

南区民へのアンケートデータをもとにしたウェルネス研究を実施し、事業全体の活動基礎資料として活用可能となる整備を行う。

Ⅲ　平成27年度の活動

1．事業計画

1）ウェルネスサイエンス研究推進

学内の共同研究費において、特に以下の「地域志向」の研究推進を図る

・地域志向の教育科目を中心とした教育プロセスならびにアウトカム評価に係る検証研究を実施する。
・南区の地域賑わい創出に関する研究の推進

2）研究基盤の整備・研究関連調査

南区民へのアンケートデータを活用したウェルネス研究を継続

・学内の教員が実施している「地域志向」の研究動向を実態調査

2．主な活動

1）ウェルネスサイエンス研究推進

①「COCリサーチ共同研究」学内公募より審査を行い、4件の応募から3件の採択を行った。教員の応募率は5.1％で採択率は75.0％であった。採択された研究課題一覧は表1に示す。採択課題1は「地域志向に着眼した教育プログラム」に関する研究であり、課題2・3は「南区の地域賑わい創出」に関する研究である。

表1　平成27年度採択研究課題一覧

No	研究課題	職位	研究代表者
1	地域住民を交えたデザイン・看護合同シミュレーション教育の基礎的研究：ICT活用科目における学生の視点での言語的および非言語的評価	教授	スーディ神崎和代
2	気候性地形療法に基づく定山渓地域におけるヘルスツーリズムの検討	講師	三谷篤史
3	廃校活用を目的とした空間デザイン手法に関する研究	特任助教	籔谷 祐介

②COCリサーチ共同研究費受給者への支援体制を整え、採択者の研究の推進を図った。

③平成26年度COC共同研究成果報告書の作成・成果報告会を開催した。

日時：平成27年11月25日（水）「SCU産学官研究交流会」でのポスター展示

場所：札幌市中央区北4西5 アスティ45 16F

2）研究基盤の整備・研究関連調査

①南区民へのアンケートデータを活用した2次解析を行い、平成27年12月「日本看護科学会」で発表した。発表テーマは表2に示す（発表資料は資料1参照）。2次解析の結果は学内COCブログへ掲載し、基礎資料として活用できる体制を整えた。

表2　南区でのアンケートデータを活用した2次解析学外発表一覧

研究課題	発表者代表
地域在住高齢者の生活実態	渡邉由香利
積雪寒冷地の地域高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態	村松真澄
在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連	神島滋子
広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因	スーディ神崎和代

②学内の教員が実施している「地域志向」の研究動向を実態調査

COC事業内に留まらず学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容を把握するために、大学全教員を対象にした調査を平成27年10月～12月に実施した。対象教員の75名中34名から得ら

れ、回収率は45.3％であった。回答のあった対象では、札幌市立大学の6割の教員が地域に密着した研究課題に取り組んでいたことが明らかになった。実態調査内容の詳細は資料２を参照。

３.評価

地域課題の解決に寄与する研究の採択を行い、「地域志向」の研究推進を計画通り進めることができた。しかしながら、当初の計画では、地域志向の教育科目を中心とした教育プロセスならびにアウトカム評価に係る検証研究を実施することであったが、アウトカムの検証までは至っていない。また、「COCリサーチ共同研究」学内の応募状況は前年度より低下していた。今後は、更に研究推進への積極的な活動が必要であると考える。

今年度は、前回の調査データを活用した2次解析を行い、学外で公表するなどの積極的な活動を行った。同時に、学内でデータ活用ができる体制を整備した。更に、学内の教員を対象として、教員が実施している「地域志向」の研究動向を調査して、実態を把握した。今後は、このデータを基礎資料として、研究推進としての評価に活用していきたい。

Ⅳ　今後の計画

1）次年度はリサーチへの応募の推進を図るために、研究の支援を引き続き実施し、特に下記の研究に関するテーマを募集し推進していく。
- 地域志向の教育科目を中心とした教育プロセスならびにアウトカム等に関する研究
- 南区に焦点を充てた地域の住環境教育・熱環境に関する研究
- 訪問看護現場におけるＩＣＴサービスの教育融合に関する研究

2）南区民へのアンケートデータを活用したウェルネス研究を推進し、研究のプロセスを支援していく。

01 地域在住高齢者の生活実態

○ 渡邉由加利　村松真澄　神島滋子　スーディ神崎和代　川村三希子
貝谷敏子　山内まゆみ　御厩美登里　檜山明子
札幌市立大学看護学部

【目的】	本研究の目的は，地域在住高齢者の生活の実態を明らかにすることである．
【方法】	1．研究デザイン：横断型調査研究 2．調査期間：2014年1月～2月 3．対象者：A市B区の住民基本台帳から無作為抽出した65歳以上の高齢者9000名． 4．調査方法：郵送法による無記名自記式質問紙による調査． 5．調査内容：基本属性（年齢，性別），居住年数区分，ペットの有無，居住地域満足度，生きがい，主観的健康感． 6．分析方法：各項目の記述統計を算出した．
【倫理的配慮】	本研究はA大学倫理審査委員会において承認を得て実施した．無作為抽出はB区の担当者によりランダム化されており，研究者は意図的な抽出は回避した．質問紙は無記名であり，個人情報は保護された．また，本研究への同意は調査票の郵送をもって同意とした．
【結果】	配布数9000名，回収数2999名，回収率33.2%．うち施設入所者などを除く2362名を分析対象とした（有効回答26.2%）． 性別については，男性57.3%　女性42.7%であった． 年齢は65-69歳38.1%，70-74歳25.7%，75-79歳17.6%，80-84歳11.6%，85歳以上7.1%であった． ペットの有無については，飼っていない80.0%、室内で飼っている17.4%、室外で飼っている0.9%、無回答1.9%であった． 地域満足度は、満足37.1%、まあ満足45.5%、どちらとも言えない7.3%、やや不満5.8%、不満2.4%、わからない0.6%、無回答1.3%，であった（図1）． 生きがいについては，十分感じている43.8%，多少感じている39.8%，あまり感じていない11.5%，全く感じていない0.8%，わからない2.4%，無回答1.8%であった（図２）． 主観的健康感については，健康である22.4%，おおむね健康54.6%，あまり健康でない12.5%，健康ではない9.2%，わからない0.6%，無回答0.8%であった（図３）．

図１．地域満足度

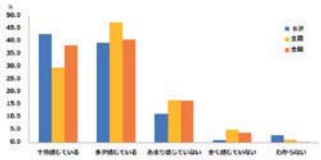


図２．生きがい

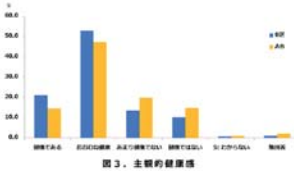


図３．主観的健康感

【考察】本地域における居住年数は，30年以上居住しているものが約50%と約半数を占めていること，地域満足度の結果から満足とまあ満足を合わせると80%を超えていることから，住みやすい地域であることが推察される．生きがいについては約8割が多少にかかわらず生きがいを感じており，この結果は全国調査[1]とほぼ同様の結果であった．また，健康状態においては，約8割が健康，おおむね健康と答えており，調査対象市の調査[2]は，約6割であったことから，同市の他地域に比べ健康な高齢者が多いことがわかった．

【限界】本研究の回収率が33.2%であったことから,満足度の高い高齢者が回答していた可能性が推察される．

【参考文献】

１）平成25年度「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」内閣府
２）平成25年度「高齢者に関する意識調査」A市

【研究費】この研究は，文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の一部として行われた．
日本看護科学学会COI開示　筆頭発表者渡邉由加利　演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません．

02 積雪寒冷地の地域高齢者のQuality of life（EuroQOL効用値）の実態

○村松真澄，神島滋子，スーディ神崎和代，川村三希子，貝谷敏子，
渡辺由加利，山内まゆみ，御厩美登里，檜山明子
札幌市立大学看護学部

【目的】	本研究の目的は，積雪寒冷地の地域高齢者のQOLを表し，移動困難者の実態を明らかにすることである．
【方法】	1．研究デザイン：横断型調査研究． 2．調査期間：2014年1月～2月 3．対象者：A市B区の住民基本台帳から無作為抽出した65歳以上の高齢者9000名． 4．調査方法：郵送法による無記名自記式質問紙による調査．調査の内容は基本属性（年齢，性別，居住形態，同居の有無），居住地域満足度，いきがい，主観的健康感，EuroQOLの5項目と効用値（以下EQ）である．5．分析方法：各項目のEQの記述統計を算出した．
【倫理的配慮】	本研究はA大学倫理審査委員会において承認を得て実施した．無作為抽出はB区の担当者によりランダム化されており，研究者は意図的な抽出は回避した．質問紙は無記名であり，個人情報は保護された．また，本研究への同意は調査票の郵送をもって同意とした．
【結果】	配布数9000名，回収数2999名，回収率33.2%．そのうち，EQ-5Dの項目すべてに回答しEQが付与されたもの2484名を有効回答とした．有効回答率27.6%であった． 性別については，男性56.7%，女性42.9%，無回答0.4%であった．各項目のEQを表に示す．QOLの平均値±標準偏差はEQ 0.863±0.169であった．EQ-5Dの各項目では「いくらか問題がある，または，できない」と回答しているものが各項目で5.5%～39.1%であった．

基本属性とEURO効用値

		全体		EURO効用値	
		人数	%	平均値	標準偏差
性別					
	男性	1408	56.68	0.882	0.157
	女性	1065	42.87	0.838	0.180
	無回答	11	0.44	0.838	0.199
	合計	2484	100	0.863	0.169
年齢区分					
	満65～69歳	930	37.44	0.904	0.136
	満70～74歳	624	25.12	0.883	0.152
	満75～79歳	429	17.27	0.856	0.173
	満80～84歳	289	11.63	0.802	0.178
	満85歳以上	202	8.13	0.722	0.222
	無回答	10	0.40	0.757	0.188
	合計	2484	100	0.863	0.169
	加重平均	73.38			
住宅種別					
	自宅（一軒家）	1618	65.14	0.863	0.163
	自宅（マンション）	476	19.16	0.904	0.144
	借家（一軒家）	25	1.01	0.824	0.170
	借家（マンション/他）	93	3.74	0.869	0.146
	高齢者住宅	20	0.81	0.682	0.176
	公営住宅	181	7.29	0.856	0.160
	施設入居	39	1.57	0.652	0.269
	その他	23	0.93	0.630	0.343
	無回答	9	0.40	0.709	0.084
	合計	2484	100	0.863	0.169
家族数					
	一人暮らし	314	12.64	0.844	0.165
	二人以上	2144	86.40	0.867	0.169
	無効回答	26	1.00	0.791	0.192
	合計	2484	100	0.863	0.169
地域の満足度					
	満足	921	37.08	0.888	0.159
	まあ満足	1129	45.45	0.860	0.166
	どちらとも言えない	182	7.33	0.819	0.169
	やや不満	145	5.84	0.841	0.171
	不満	59	2.38	0.789	0.198
	わからない	16	0.64	0.652	0.326
	無回答	32	1.29	0.854	0.188
	合計	2484	100	0.863	0.169
健康度					
	健康である	557	22.42	0.957	0.101
	おおむね健康	1355	54.55	0.888	0.136
	あまり健康でない	310	12.48	0.754	0.173
	健康ではない	228	9.18	0.640	0.199
	わからない	14	0.56	0.811	0.243
	無回答	20	0.80	0.838	0.162
	合計	2484	100	0.863	0.169
生きがい					
	十分感じている	1087	43.76	0.916	0.135
	多少	989	39.81	0.846	0.162
	あまり	286	11.51	0.770	0.204
	全く感じていない	20	0.81	0.666	0.185
	わからない	59	2.38	0.708	0.252
	無回答	43	1.80	0.851	0.166
	合計	2484	100	0.863	0.169

EQ5項目とEURO効用値

		全体		EURO効用値	
		人数	%	平均値	標準偏差
移動の程度					
	問題なし	2062	83.01	0.915	0.120
	いくらか問題	406	16.34	0.628	0.092
	できない	16	0.64	0.092	0.086
	合計	2484	100	0.863	0.169
身の回りの整理					
	問題なし	2340	94.20	0.885	0.142
	いくらか問題	124	4.99	0.540	0.120
	できない	20	0.81	0.280	0.268
	合計	2484	100	0.863	0.169
ふだんの活動					
	問題なし	2122	85.43	0.910	0.123
	いくらか問題	312	12.56	0.624	0.086
	できない	50	2.01	0.377	0.213
	合計	2484	100	0.863	0.169
痛み/不快感					
	問題なし	1513	60.91	0.973	0.086
	いくらか問題	926	37.28	0.702	0.101
	できない	45	1.81	0.469	0.143
	合計	2484	100	0.863	0.169
不安/ふさぎこみ					
	問題なし	2165	87.16	0.899	0.141
	いくらか問題	308	12.40	0.627	0.134
	できない	11	0.44	0.445	0.262
	合計	2484	100	0.863	0.169

【考察】本調査のEQについては，地域高齢者を対象とした0.83±0.14，0.90±0.12（海老原，2013），健常者0.875,0.909（日本政策医療機構，2014）と積雪寒冷地においても同様であった．この地域は，A市の中でも広域で高齢化率が高い地域であるが，高齢者の約17.0%が移動に困難をきたしていると回答しているため，寒冷地における生活支援として「移動」支援のサービスの必要性が示唆された．

【研究費】この研究は，文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の一部として行われた．

日本看護科学学会
COI開示
村松真澄

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

03 在宅高齢者の外出の状況とQOLの関連

○神島滋子，村松真澄，スーディ神崎和代，川村三希子，貝谷敏子，
渡邉由加利，山内真由美，御厩美登里，檜山明子
札幌市立大学看護学部

【目的】	本研究の目的は，在宅高齢者の外出とQOLの関連について検討することである．
【方法】	1．研究デザイン：横断型調査研究 2．調査期間：2014年1月～2月 3．対象者：A市B区の住民基本台帳から無作為抽出した65歳以上の高齢者9000名． 4．調査方法：郵送法による無記名自記式質問紙による調査． 5．調査内容：基本属性（年齢、性別）、外出の頻度とその目的、EuroQOL効用値（以下、EQ）、VAS． 6．分析方法：各項目の記述統計を算出。各項目間の相関係数を算出した。 統計ソフトはIBM SPSS Statistics 22を用い、有意水準は5%とした．
【倫理的配慮】	本研究はA大学倫理審査委員会において承認を得て実施した．無作為抽出はB区の担当者によりランダム化されており，研究者は意図的な抽出は回避した．質問紙は無記名であり，個人情報は保護された．また，本研究への同意は調査票の郵送をもって同意とした．
【結果】	配布数9000名，回収数2999名，うち施設入所者などを除く2362名を分析対象とした（有効回答26.2%）． 性別については，男性57.3%、女性42.7%であった． 年齢は65-69歳38.1%、70-74歳25.7%、75-79歳17.6%、80-84歳11.6%、85歳以上7.1%であった． EQの平均値±標準偏差はE0.863±0.169であった。VASは70.5±20.3であった。 外出の頻度は表１、頻度との相関を表2に示す。外出目的別に男女の回答の有無についてχ２検定を行った（表３）。男性で有意に外出目的と答えた者が多かった項目は「仕事」、「町内会・ボランティア」、「散歩」、「運動」であり、女性で有意だったのは「家族に会う」、「友人に会う」、「買い物」、「通院」、「銀行」であり、「趣味」「食事」「公共施設」「その他」では有意な差を認めなかった．

表1　外出の頻度　(n=2318)

外出頻度	度数	%
ほぼ毎日	771	32.6
週に4～5日	590	25
週に3日	384	16.3
週に2日	325	13.8
週に2日	135	5.7
2週に1日	34	1.4
月に1回	45	1.9
ほとんど外出しない	34	1.4

表2　外出の頻度と各項目の相関

	年齢	EQ	VAS
Spearman's ρ	0.273	-0.270	-0.217
p	0.000	0.000	0.000
n	2318	2318	2312

表3　外出の目的とQOLとの関連　(n=2362)

外出目的	n	%	性別				男女差	外出目的別EQの差		外出目的別VASの差	
			男性n	%	女性n	%	p	t値	p	t値	p
親、子供や孫、親戚に会う	219	9.3	103	7.6	116	11.5	0.001	3.491	0.000	2.145	0.032
友人や近所の人に会う	273	11.6	104	7.7	169	16.7	0.000	1.333	0.183	2.083	0.037
仕事	430	18.2	301	22.2	129	12.8	0.000	7.838	0.000	5.932	0.000
趣味	768	32.5	433	32.0	335	33.2	0.539	6.604	0.000	5.761	0.000
町内会他	247	10.5	160	11.8	87	8.6	0.012	4.178	0.000	3.660	0.000
散歩	631	26.7	436	32.2	195	19.3	0.000	3.106	0.020	1.687	0.092
運動	484	20.5	326	24.1	158	15.7	0.000	7.000	0.000	6.297	0.000
食事	110	4.7	67	5.0	43	4.3	0.431	0.229	0.819	1.435	0.151
買い物	1692	71.6	894	66.1	798	79.1	0.000	4.632	0.000	4.093	0.000
通院	492	20.8	394	29.1	362	35.9	0.000	-18.322	0.000	-14.088	0.000
銀行他	492	20.8	221	16.3	271	26.9	0.000	-2.832	0.005	-0.957	0.339
公共施設	193	8.2	111	8.2	82	8.1	0.946	2.747	0.006	2.211	0.027
その他	152	6.4	78	5.8	74	7.3	0.124	-6.973	0.000	-3.998	0.000

【考察】外出頻度とEQ、VASともに相関が見られ、外出ができる健康状態がQOLに関連した。年齢が高くなるにつれて外出頻度は減少しEQ,VASも低くなることから、外出頻度は健康関連QOLの指標となると考える。外出の目的別では性別により外出の目的が異なり、男性は仕事や町内会など社会参加に関連しており、女性では親しい人との交流や家事に関連した外出が多かった。性別にかかわらずEQやVASが高いのは趣味であり、藤川ら(2011)と同様に社会参加の機会がQOLと関連することが示唆された。

【研究費】
この研究は，文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の一部として行われた．

日本看護科学学会　COI開示　神島滋子
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

04 広域寒冷地在住高齢者の感じる今後の不安要因

○スーディ神崎和代、御厩美登里、渡邉由加利、山内まゆみ、檜山明子、
川村三希子、村松真澄、神島滋子、貝谷敏子
札幌市立大学看護学部

【目的】	目的は量的及び質的の両面から、広域寒冷地域在住高齢者の感じている今後の不安要因を明らかにすることである。
【方法】	1．研究デザイン：横断型調査研究 2．調査期間：2014年1月～2月 3．対象者：A市B区の住民基本台帳から無作為抽出した65歳以上の高齢者9000名 4．調査方法：郵送法による無記名自記式質問紙による調査　調査の内容は、今後の不安要因としてあてはまるものを20項目から複数選択するとともに、自由記載欄への回答とした。 5．分析方法：【今後の不安】20項目から選択した（複数選択可）項目を単純集計し、更に自由記述内容を質的分析した。
【倫理的配慮】	本研究はA大学倫理審査委員会において承認を得て実施した。無作為抽出はB区の担当者によりランダム化されており、研究者は意図的な抽出は回避した。質問紙は無記名であり、個人情報は保護された。また、本研究への同意は調査票の郵送をもって同意とした。
【結果】	配布数9000名、回収数2999名（回収率33.2%）、うち、該当項目に回答した2841名を有効回答とした。今後の不安要因は上位から健康、自分の介護、除雪と続いた（図１）。自由記載（n=62）からの抽出要因は孤独（25.8%）外出困難（19.3%）経済的不安（14.5%）等であった。

図1 今後の不安（複数回答）n=2841

表1　今後の不安（自由記載）n=62

不安要因カテゴリー	N	%
孤独	16	25.8
外出困難	12	19.3
経済的不安	9	14.5
残る家族・死亡後の不安	9	14.5
家屋の管理・維持	7	11.3
全てに不安	6	9.7
その他	3	4.8

【考察】
結果は直井[1]の報告と類似しており、本研究においても自立生活に伴う不安要因として、健康不安と健康課題に伴う自身の介護が明らかとなり、内容分析から抽出された（孤独）には地域参加機会創出の必要性が示唆されると共に広域寒冷地帯の自然環境改に（外出困難）となり、それが孤独感に連鎖している可能性が推測された。冬季の転倒不安等による外出減少に伴う孤立が孤独感を増強している可能性が推測された。これらの不安要因は相互に作用していると示唆され、一つの不安要因に解決策を講じるのではなく、包括的な不安軽減策の必要性を示唆している。

【結論】
高齢者は今後の不安要因として、上位から健康（n＝1559）,自分の介護（n＝847）,除雪（n＝719）等をあげ、自由記載からは孤独（n＝16）,外出困難（n＝12）,経済的不安（n＝9）が抽出された。

【限界】
本結果は集団の傾向を示唆するに留まるので、個別的対応には更なる分析が必要である。

【文献】
1）直井道子（2005）,都市における老後の不安.　社会保障研究,Vol.41,No.1, 12-22.

【研究費】
この研究は，文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の一部として行った。

資料２：「地域志向」の研究動向実態調査

2016 年 1 月 12 日

COC 事業 研究企画推進チーム

平成 27 年度「地域に密着した」研究実態の調査報告

担当：山田良、矢部和夫、山内まゆみ、檜山明子
中田亜由美、籔谷祐介

１．目的

COC 事業内に留まらず学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容を把握することで、今後の COC 活動の参考にする。

２．調査概要

１）対象

札幌市立大学全教員（特別休暇中の教員を除く）75 名

２）調査期間

2015 年 10 月～12 月

３）調査方法

質問紙調査

質問紙をメールで配信し、メール返信または事務局に設置した回答箱への投函により回答を得た。

調査項目

①所属学部②地域に密着した研究への取り組み状況③研究テーマ④開始年度⑤終了年度（または継続中）⑥研究代表者名⑦対象地域⑧地域の研究協力者・共同研究者

なお、地域に密着した研究とは、COC 事業での研究に限らず、「地域との関係の中で調査・分析される」「地域活性等につながる制作研究」「地域との交流実績やワークショップの記録」とした。

分析方法

地域に密着した研究への取り組み状況の有無別に該当した人数を単純集計した。研究テーマは、内容をカテゴリ分類した。

３．結果

１）回答の概要

回答は、対象者の 75 名中 34 名から得られた（回収率 45.3%）。学部別に見るとデザイン

学部 8 名（23.5%）、看護学部 26 名（63.4%）であった。

２）地域に密着した研究への取り組み状況

回答の得られた 34 名中、地域に密着した研究に取り組んでいる教員は 21 名（62.8%）、取り組んでいない教員は 13 名（38.2%）であった（図 1）。学部別にみるとデザイン学部では取り組んでいる 7 名（87.5%）、取り組んでいない 1 名（12.5%）であった。看護学部では取り組んでいる 14 名（53.8%）、取り組んでいない 12 名（46.2%）であり、デザイン学部での取り組み割合は高かった。

教員ひとりあたりの研究数は 0 件から 6 件であった。研究に取り組んでいる教員の研究数平均は 1.8 件（SD1.4）であった。学部別にみると、研究に取り組んでいる教員の研究数は、デザイン学部で平均 2.4 件（SD 1.9）、看護学部で平均 1.5 件（SD1.0）であり、デザイン学部ではひとりあたりの研究件数が多かった。

開始年度は、2015 年度が最も多く 15 件で全体の 39.5%を占めていた。また、継続中の研究は 22 件で 57.9%であった。

３）研究の対象地域

質問紙に明記されていた対象地域を集計した結果、札幌市が最も多く 13 件であった。札幌市南区における研究数をまとめると 8 件（19.5%）であり、札幌市内は 23 件（56.1%）であった。北海道内は 38 件（92.7%）であった。

４）地域に密着した研究のテーマ

調査により収集した研究テーマの概観を表 2 に示す。研究テーマは、地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境の改善・充実に関連した研究、地域住民の生きがいに関連した研究、その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、等)に分類された。

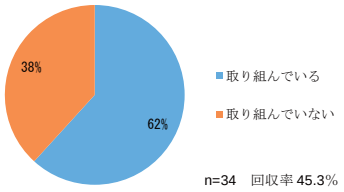


図 1　地域に密着した研究への取り組み状況

表 1　地域に密着した研究の対象地域

地域	数
北海道	3
札幌市	13
札幌市桑園地区	2
札幌市南区	5
札幌市南区定山渓地区	2
札幌市南区芸術の森地区	1
厚真町	2
幌加内町	1
夕張市	1
三笠市	1
登別市	1
南幌町	1
名寄市	1
寿都町	1
石狩市	1
喜茂別町	1
弟子屈市	1
フィンランド ラップランド州	1
高知県	1
全国	1
合計	41

（重複回答あり）

表 2　地域に密着した研究テーマ概観

テーマ概観	研究テーマ数
地域住民の健康課題に関連	18
生活環境の改善・充実に関連	13
地域住民の生きがいに関連	1
その他(教育、コンソーシアム開発、人材育成、等)	4

４．考察

地域に密着した研究について、札幌市立大学の 6 割の教員が取り組んでいたことが明らかになった。

開始年度は、2015 年度が最も多かったこと、継続中の研究が 57.9%であることをふまえると、地域に密着した「COC リサーチ」推進の成果であると捉えられる。

地域に密着した研究テーマを概観すると、地域住民の健康課題に関連した研究、生活環境に関連した研究、地域住民の生きがいに関連した研究など多岐にわたっていた。

また、札幌市南区を対象とした研究は、全体の 19.5%であった。今後は、札幌市南区を対象とした研究を推進する必要があるため、高齢者ニーズ調査結果とも比較しながら、検討を続ける。

本調査の回答率は 45.3%であり、全教員の半数に満たない。そのため、結果は学内で行われている「地域に密着した」研究数や内容を十分に把握できていないと考えられる。次年度も継続して状況の調査を進めていきたい。

3.1 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの教室〉班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：（同上）
メンバー：【デザイン学部】吉田 惠介・松井 美穂・三谷 篤史
【看護学部】松浦 和代・菅原 美樹・守村 洋・櫻井 繭子・森川 由紀

Ⅰ　本班の平成27年度の事業概要・目的

「まちの教室」班では、平成26年度に引き続き、デザイン学部および看護学部の教員による地域住民対象の「SCUまちの教室（公開講座・授業公開）」を運営している。「SCUまちの教室」は、平成26年度末に札幌市南区真駒内に開設されたCOCキャンパスを会場として、積雪寒冷地の「まちづくり」や「ウェルネス」に関わるデザイン学および看護学の最先端の講義を公開することによって、地域住民に本学について興味・関心をもってもらうことを目的としている。

Ⅱ　本班の平成27年度の役割

「まちの教室」は、①公開講座、②授業公開（大学院デザイン研究科）の二つのカテゴリーによって構成されている。平成27年度は、平成26年度に引き続き、①公開講座は、単発講座、連続講座のいずれかで、②授業公開は、正規15回の授業のうち半数未満分を公開する形で企画の募集、実施する方針とした。また、本学COC事業学び舎企画推進チームの「まちの談話室」班、「まちの先生」班、「まちの健康応援室（平成27年度に新規開設）」班の活動とも密接に関係するので、各班とも連携して活動することとした。

本COC事業における本班の運営予算配分は昨年度に引き続きゼロとした。これは本COC事業に対する国（文部科学省）からの補助金の配分が平成29年度をもって終了するので、大学の自主事業として本班の運営がどこまで対応できるかを見極めるためである。別途、事業費が必要な場合については、その都度、COC幹事会で検討することとした。この件に関連して、「まちの教室」に応募があった企画の審査にあたっては、本班での審査に続き、本学地域連携研究センター（人材育成部門）での2段階審査の体制をとることにした。

Ⅲ　平成27年度の活動

1.事業計画

平成26年度は、札幌市南区の地区センターやまちづくりセンター等の会場を利用して実施していたが、平成26年度末にCOCキャンパス「まちの学校」が開設されたことを受けて、平成27年度からはCOCキャンパスを「SCUまちの教室」の実施拠点とする計画とした。

前期と後期の2回に分けて、デザイン学部・看護学部の全教員に対して公開講座の企画を募集し審査を行ない、承認された企画について実施する方針とした。また、授業公開については、大学院デザイン研究科教授会（授業担当教員）に対して募集する計画とした。

教員による公開講座「昆虫のデザイン」

大学院デザイン研究科の公開授業「建築環境学特論」

2.活動内容

平成27年度は、デザイン学部・看護学部の全教員に対して公開講座の企画を募集し、公開講座（合計25企画、40回）・授業公開（合計3科目・15回）の申請があった（平成28年3月8日現在）。詳細は別頁（p.32表2、p.33表3）を参照のこと。

なお、「SCUまちの教室」の一部は、札幌市中央区にある本学サテライトキャンパスを主会場とする「札幌市立大学公開講座」事業との合同企画、ならびに札幌市生涯学習センター「ちえりあ」などの団体・組織との共催等によって実施した。

3.評　価

平成29年度末の本COC事業の終了までに全教員による公開講座の実施を目標にしている。あと2ヵ年を残す中で平成25～27年度末までの実施状況を整理した。以下はその結果である。平成27年度末時点で、全学の実施率が41.0％（デザイン学部：47.1％、看護学部：31.8％）である。全学所属教員の約4割が2年半の間に講座を実施している。残り2年間で残り7割の実施を目指す予定である。なお、平成28年度前期分の企画申請があり、審査を一部終了している。この数を加えると全体では46.2％（デザイン学部：47.1％、看護学部：45.5％）となる。

表1：公開講座の教員による実施率

学部	項目	平成25年度	平成26年度		平成27年度	
		後期	前期	後期	前期	後期
デザイン	開講済み教員数 (人)	4	5	8	11	16
	デザイン教員数 (人)	34	34	34	34	34
	実施率 (%)	11.8	14.7	23.5	32.4	47.1
看　護	開講済み教員数 (人)	2	2	4	4	14
	看護教員数 (人)	44	44	44	44	44
	実施率 (%)	4.5	4.5	9.1	9.1	31.8
全　学	開講済み教員数 (人)	6	7	12	15	30
	全学　教員数 (人)	78	78	78	78	78
	実施率 (%)	7.7	9.0	15.4	19.2	38.4

上記の実施率については、平成27年度10月の班会議で議題とし、これまでの実施状況を定量的なデータとして学内に提示すべきという意見を受けて整理したものである。その結果、年度内および平成28年度以降の具体的な目標値を定めることができた。

具体的には、デザイン学部と看護学部の連携講座の呼びかけや、本学教員と近隣の他大学教員との連携企画などの推進や、過年度に実施したサテライトキャンパスでの公開講座の内容についての紹介、学協会・連携団体との共催事業などによる実施を全学的に促すなどの措置を講じた。また札幌市南区の各町内会・各地区センターが企画している催事情報を収集し、そこに相乗りするなどの手法を取ることが検討された。次年度以降も実施率などを含めて、定量的にデータを示すことによって班の活動を評価する予定である。

また、本年度の活動内容の中で評価できる点は、地域連携研究センター（人材育成部門）の公開講座（主としてサテライト開催）と連携して実施する仕組みを構築するとともに、札幌市生涯学習センター「ちえりあ」、北海道ロボット教育推進会、札幌駅総合開発株式会社、札幌市南区地域包括支援センターなどの団体・組織との共催等によって実施したことである。

Ⅳ　今後の課題

1）地域の町内会、地区センターなどが主催する催事と重ね合わせた連携企画を推進し、広報活動も含めた強化を行なう必要がある。

2）デザイン学部と看護学部の連携によって、地域と繋がりを作っていく公開講座を企画する。企画については「まちの教室班」が具体的にテーマを出して、担当可能な教員に打診するなどの方法を取る。

3）参加者を具体的に想定し、規模別やテーマ別など、まちの教室の公開講座カテゴリーを実践的で地域住民に対して判りやすいものに変えていく。

4）「まちの談話室」、「まちの先生」、「まちの健康応援室」班との水平方向の連携を図る必要がある。具体的には合同班会議の開催で、共同企画を進めるなどが挙げられる。

5）「学び舎企画推進チーム」の全体予算から、もしくは、大学本体の公開講座との合同企画として経費負担をお願いするなどの方法を検討する必要がある。

表２：平成27年度　SCUまちの教室 公開講座 実施・申請状況

2016年3月8日現在

コース	No.	講座名	担当	主催・共催・合同	開催日	時間	会場	対象	定員	参加者		
										市民	学生	教職員
1	1	「都市の時代」から「地域の時代」へ	蓮見 孝	主催	5/9（土）	15:30～16:00	COCキャンパス	一般市民	30	38		
2	2	真駒内駅花いっぱい花壇づくり 会場）真駒内駅前花壇	吉田　恵介	主催	5/14（木）	9:30～12:00	真駒内駅前花壇	一般市民 真駒内地区連合会 花壇管理ボランティア	15	44	5	2
3	3	WRO競技会講習会 共催：北海道ロボット教育推進会	三谷　篤史	共催	6/21（日）	10:00～15:00	COCキャンパス	小学4～6年生 及びその保護者	26	51		1
	4			共催	7/5(日)	10:00～15:00	COCキャンパス		26	52		1
	5			共催	7/12（日）	10:00～16:30	COCキャンパス		26	68		1
	6			共催	7/26（日）	10:00～16:30	COCキャンパス		26	42		1
	7			共催	8/1（土） 8/2（日）	10:00～16:30	COCキャンパス		-	39		1
	8			共催	8/16（日）	10:30～16:30	COCキャンパス		-	80		1
	9			共催	10/18（日）	10:00～16:00	サテライト		20	29		1
	10			共催	11/8（日）	10:00～16:00	青少年科学館		20	32		1
4	11	親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」 共催：日本機械学会	三谷　篤史	共催	6/27（土）	9:00～17:30	青少年科学館	小学4～6年生 及びその保護者	60	58		1
5	12	昆虫のデザイン「多様なかたちに意味はあるのか？」	酒井　正幸	主催	7/4（土）	10:40～12:10	COCキャンパス	一般市民	30	7	1	4
6	13	「風の子Go！Go！」in Coミドリ 共催：札幌駅総合開発株式会社　札幌市立大学あそびlab！オヘソ 協力：子どもの体験活動の場Coミドリ	小宮　加容子	共催	7/20（月・祝）	10:00～12:00	まこまる（グランド）	3歳～小学生 及びその保護者		27		1
7	14	connekid in そらのガーデン2015「風の子Go!Go!」 共催：札幌駅総合開発株式会社	小宮　加容子	共催	8/8（土）	11:00～16:00	エスタ屋上	3歳～小学生 及びその保護者	80	213		1
8	15	メカトロ教室・ロボットカーを走らせよう 共催：梅澤無線機株式会社札幌営業所	三谷　篤史	共催	8/22（土）	13:00～16:00	COCキャンパス	小学4年生～中学生 及びその保護者	12組	13	1	1
	16			共催	1/9（土）	13:00～16:00	COCキャンパス	小学4年生～中学生 及びその保護者	12組	33	1	1
9	17	すこやかに生ききるための知恵１、２	村松　真澄	主催	10/25（日）	15:00～17:00	COCキャンパス	一般市民	50	12	2	1
	18			主催	11/22（日）	15:00～17:00	COCキャンパス	一般市民	50	15	5	1
10	19	シミュレーション教育の先進的施設の紹介 -アメリカにおける視察報告：BarrowとUCLA 会場）サテライトキャンパス	村松　真澄 三谷　篤史	主催	10/26（月）	18:00～20:00	サテライト	医療・看護従事者, 教育関係, 社会人, 行政関係者	30	13		2
11	20	生活習慣病予防講座： 少量の飲酒は本当に健康に良いのか？	藤井　瑞恵	主催	11/28（土）	14:00～15:00	COCキャンパス	一般市民	40	11		2
12	21	「学び舎」で考える、障がい者アートから地域創生へ 共催：一般社団法人北海道チャレンジアート＆プロダクツ	上遠野　敏 中田　亜由美	共催	12/5（土）	13:30～15:30	COCキャンパス	一般市民	50	26		2
13	22	昆虫のデザインPartⅡ「かたちの進化とヒトとの関わり」	酒井　正幸	主催	12/19（土）	13:10～14:40	COCキャンパス	一般市民	20	7	1	4
14	23	老活ゼミナール　～すこやかに暮らす知恵～	田中　広美 村松　真澄	主催	1/6（水）	14:00～15:30	COCキャンパス	一般市民	20	14		2
	24			主催	1/9（土）	14:00～15:30	サテライト	一般市民	20	12		2
15	25	おもちの季節の「のどつまりの予防、すばやい発見と対応」	松浦　和代 上村　浩太 三上　智子 柏倉　大作	合同	1/13（水）	12:00～13:00 13:00～14:00	定山渓小学校	一般市民 （幼児、小学生含む）	100	108		9
16	26	手で描く、手で創るデザイン	石崎　友紀 籔谷　祐介	主催	1/30（土）	10:30～12:00	COCキャンパス	一般市民	30	20	2	2
17	27	南区の人口減少とその将来を考える	原　俊彦	主催	2/19（金）	16:00～17:00	COCキャンパス	一般市民	40	19	2	1
18	28	北海道の建築の魅力	金子　晋也	主催	2/27（土）	11:00～12:00	COCキャンパス	一般市民	30	21		5
19	29	冬場に多い高齢者の救急疾患とセルフトリアージ（緊急自己判定）	菅原　美樹	主催	2/27（土）	14:00～15:00	COCキャンパス	一般市民	30	11		2
20	30	≪ちえりあ連携講座≫ 札幌市の文化財建造物をたどる＜冬＞ ～札幌市資料館と旧永山武四郎邸～ ①札幌資料館の建築を学ぶ ②旧永山武四郎邸の建築を学ぶ	羽深　久夫	合同	①　3/1（火）	14:00～16:00	札幌市資料館	一般市民	15	15		1
	31			合同	②　3/8（火）	14:00～16:00	旧永山武四郎邸		15	15		1
21	32	『風と共に去りぬ』とアメリカ南部社会 ①『風と共に去りぬ』の女性たち ②『風と共に去りぬ』と人種	松井　美穂	主催	①　3/4（金）		COCキャンパス	一般市民	20	4		1
	33			主催	②　3/18（金）	18:00～19:30			20			
22	34	コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える ①みんなの暮らしを良くする、多世代型コミュニティ ②オリンピックで変わった、みんなの暮らし	籔谷　祐介	主催	①　3/5（土）	18:30～20:30	石山振興会館	一般市民	30	24	2	1
	35			主催	②　3/26（土）	18:30～20:30	COCキャンパス	一般市民	30			
23	36	事前指示書の意味と書き方	スーディ神埼和代	合同	3/12（土）	13:00～15:00	COCキャンパス	一般市民	30			
24	37	ロボットづくり講習会　初級編 ①四足歩行ロボ編 ②タッチセンサーロボ編 ③シューターロボ編 共催：北海道ロボット教育推進会	三谷　篤史	共催	①　3/13（日）	10:00～12:00	COCキャンパス	小学校低学年 （1年生～3年生）	12			
	38			共催	②　3/21（祝）	10:00～12:00	COCキャンパス		12			
	39			共催	③　3/21（祝）	14:00～16:00	COCキャンパス		12			
25	40	ユニバーサルツーリズム都市札幌を考える	酒井　正幸	主催	③　3/28（月）	18:00～20:00	COCキャンパス	一般市民	20			

表３：平成27年度　SCUまちの教室 公開授業 実施状況

コース	No.	講座名	担当	開催日	時間	会場	対象	定員	参加者		
									市民	学生	教職員
1	1	大学院授業公開「デザイン特論」まちづくりのデザイン論	蓮見　孝	5/18（月）	18:30～20:00	COCキャンパス	学生、一般市民	20	10	9	1
	2			5/25（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	17	10	1
	3			6/1（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	10	9	1
	4			6/8（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	11	8	1
	5			6/15（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	11	8	1
	6			6/22（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	12	10	1
	7			6/29（月）	18:30～20:00		学生、一般市民	20	12	8	1
2	8	大学院授業公開「建築環境学特論」	齊藤　雅也	11/17（火）	9:00～10:30	COCキャンパス	学生、一般市民	10	5	3	1
	9			11/24（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	6	1	1
	10			12/1（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	7	2	1
	11			12/8（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	5	3	1
	12			12/15（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	6	2	1
	13			12/22（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	8	1	1
	14			1/19（火）	9:00～10:30		学生、一般市民	10	5	2	1
3	15	大学院授業公開「地域創生デザイン特別セミナーＢ」	酒井　正幸	11/27（金）	14:50～18:00	COCキャンパス	学生、一般市民	20	14	7	5

3.2 学び舎企画推進チーム〈 SCU まちの談話室 〉班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：清水 光子
メンバー：【デザイン学部】羽深 久夫・武田 亘明・片山めぐみ・小宮 加容子・福田 大年
【看護学部】大野 夏代・藤井 瑞恵・矢野 祐美子・田仲 里江

Ⅰ　本班の平成27年度の事業概要・目的

地域の人々のウェルネス(健康で、楽しく、生きがいがもてる状態)を創出する場を設定し、各種事業やイベントを開催する。

Ⅱ　本班の平成27年度の役割

1．本班は、上記の目的を達成するために、地域住民や企業・関係団体・学生等と共に事業やイベントの企画・実施・評価を行う。本班が主体的に企画・実施を行う場合と、アドバイスの役割を果たす場合がある。

2．事業やイベントの実施にあたっては、市民や学生及び教職員など多くの人々が参加できるように周知や広報を充実する。

3．平成27年度の担当者

◆コミュニティカフェグループ：片山めぐみ・武田亘明・清水光子・田仲里江

◆図書室・談話室グループ：武田亘明・矢野祐美子

◆市民交流グループ

・あそび・絵本グループ：小宮加容子・福田大年

・交流企画グループ：田仲里江・大野夏代・矢野祐美子

・展示グループ：福田大年・藤井瑞恵

・地域防災グループ：羽深久夫

Ⅲ　平成27年度の活動

◆SCU まちの談話室全体の活動

1．事業計画

1）目的を達成するために、各種の事業やイベントを開催する。

2）事業やイベントの提案や原案作成は担当グループが行い、まちの談話室班会議で決定する。

3）班会議は月1回程度開催する。事業の詳細については担当者が随時打ち合わせを行う。

4）事業やイベント開催の当日は、チームメンバーが参加して盛り上げ、地域住民と交流を深める。

2．主な活動

1）事業やイベントの原案が、担当グループから班会議に提案され、決定していくことができた。

2）班会議は10回（2月末現在）開催した。

3）事業やイベントは、市民、学生、関係団体等の協力を得て実施することができた。

3．評　価

1）1事業の提案につき2～3回の会議が必要であったため、実施までに時間を要した。

2）計上した予算の見直しが多く、執行に時間を要することがあった。

3）事業やイベントに、市民、学生、関係団体の協力が得られたため、市民の満足度は高く参加者同士の協力関係や交流の場面を確認することができた。

◆コミュニティカフェグループの活動

1．事業計画

平成26年度のカフェを考える市民参加座談会にて、平成27年5月から5回程度の「お試しシェフ」を予定した。

2．主な活動

1）まこまる運営事業者の決定が平成26年度末になり、受け入れ体制が整わなかったため、「お試しシェフ」は、平成27年9月からの開始となった。

2）「お試しシェフ」を3回開催した（9月、10月、12月）。

3）「お試しシェフ」や平成28年度からの地域住民有志によるカフェ運営の方法を検討する、「カフェまこまるミーティング」を9回開催した。

3．評　価

市民有志らにとって、「お試しシェフ」の経験は、予算管理やメニュー設定、価格設定、食材購入、広報、接客サービス、他組織との調整等、まこまるでカフェ

を運営する際に必要なノウハウを得る契機となった。１～２回目はわずかな赤字であったが３回目は黒字となり、来店者数も毎回100名超え、交流の場としての効果を確認できた。調理や接客をはじめ、コンサート出演、南区農家による地元農作物の提供など、今後の運営に必要な市民同士の協力関係が築かれた点が評価できる。

賑わう「お試しシェフ」の様子とセットメニュー

◆図書室・談話室グループの活動

１.事業計画

1）もちより図書用書架を整備する（まこまる施設整備担当へ依頼）。書架を5000冊収納できるように安全性に配慮した書架を作成・設置する。
2）大人のための椅子、テーブル、その他室内の整備を行う。
3）市民による図書などの持ち寄りの呼びかけを行う。
4）利用促進のための広報を充実する。
5）「みんなの声」箱を設置する。
6）視聴覚機材の整備を行う。

表１：まちの図書室・談話室　利用者・図書貸出数

	利用者数（延人数）			図書貸出数	開館日数	備考 休館：日・月・祝日・年末年始
	定時測定	定時外	計			
平成27年 5月	58	73	131	12	16	5/9 OPEN
6月	63	89	152	29	21	
7月	66	114	180	28	23	
8月	84	107	191	30	21	
9月	79	64	143	9	20	9/22・23祝日
10月	90	81	171	43	23	
11月	21	159	180	25	19	11/3祝日　11/14まこまるイベント
12月	104	63	167	20	20	12/20（日）開室 12/23祝日 12/27～休館
平成28年 1月	34	27	61	24	20	～1/4休館

	開館曜日・時間		定時測定 <1日3回>
平成27年 5月～11月	火～金	13:00～20:00	14:00/16:30/19:00
	土	10:00～17:00	11:00/13:30/16:00
平成28年 12月～	火～土	10:00～17:00	11:00/13:30/16:00

書　架

児童書

文　庫

貸出ノート

情報コーナー

ミーティングテーブル

掲示板

ソファ

図書室・談話室の様子

2.主な活動

1）書架の制作と配置。安全性の確認と修繕を行った。
2）テーブルと椅子の設置（購入済みの長椅子、学習机、学習椅子）を行った。
3）図書寄付、ラジオ寄付の受け入れを行った。
4）図書にシール添付、貸出案内、貸出ノートの設置を行った。
5）まちの図書室・談話室を平成27年5月9日に開設した。そのための広報を行った。利用者数・貸出数は、表1のとおり。
6）まちの図書室・談話室に「ばくりっこ掲示板」を設置した。

3.評　価

1）平成27年10月31日時点で蔵書数4,177冊（配架済/3,928冊・未整理図書数/249冊）である。但し、受け入れ図書の登録配架作業が間に合わなくなっているため、現在受け入れを中止している。
2）談話室来室者数･利用者数は、5月から1月までで、述べ1148人であり、当初の見込みより少なかった。イベントがある時の来場者数は増加する。
3）視聴覚関係資料・機材の整備と利活用について、検討中である。

◆市民交流－あそび・絵本グループの活動

1.事業計画

まちの図書室・談話室にて、子ども達に本の面白さを伝えると共に、子ども同士、多世代の交流を図る。大学教員や学生がリードして楽しいゲームや遊びを展開する。

2.主な活動

1）「SAPPOROハロウィン～トリック オア エスケープ」の実施
日　時：平成27年10月31日（土）19:00～20:15
場　所：まこまる
参加者：45名（12歳未満16名を含む）
内　容：ハロウィンをテーマにした脱出ゲームを実施した。COCキャンパスの各教室およびCoミドリ体育館、共有の廊下には、オリジナルの「謎」が用意されており、チームで協力しながら制限時間内でその謎を解く。
2）「ボードゲームの世界に触れてみよう!」の会を実施
日　時：平成27年12月19日（土）13:00～14:30
場　所：COCキャンパスまちの学校 ホームルーム
参加者：22名（未就学児2名含む）
内　容：ボードゲームにはゲームの背景となる物語が設定されており、プレイヤー同士で世界観を共有することから始まる。今回は初めての開催ということもあり、ドイツゲームの歴史、世界に広がったドイツゲーム文化の現状の紹介と代表的なゲームの体験を実施した。

SAPPOROハロウィン～トリック オア エスケープ

ボードゲームの世界に触れてみよう！の会

3.評　価

どちらのイベントとも最大定員数に達しており、家族連れ、友達同士での参加が多かった。年齢層も子ども、大学生、大人と幅広く、南区だけでなく他の区からの参加者も多くいた。

脱出ゲームやボードゲームを初めて体験する参加者もおり、ゲーム自体も楽しんでくれていた。また、運営側で各年代が交わるようなチーム編成をしたためゲームを通して多世代の交流もできていた。

◆市民交流－交流企画グループの活動

1.事業計画

地域住民がまこまるに気楽に立ち寄り、不用品の循環ができる掲示板を利用し、「自分には不用だが、誰かが使ってくれるかもしれない」ものや「こんなものが欲しい」などの交流を目的として、「まこまるばくりっこ掲示板」の設置に向けての準備を行う。

2.主な活動

まこまるばくりっこ掲示板の設置に向けて、情報収集し、平成28年2月のスタートに向けて準備を行った。チラシ・利用方法、掲示板の作成を学生に依頼した。

教員と学生（右）による「ばくりっこ掲示板」制作の様子

設置された「ばくりっこ掲示板」と A4 リーフレット

3.評　価

企画に時間を要したが、2月のスタートに向けて準備を整えることができた。

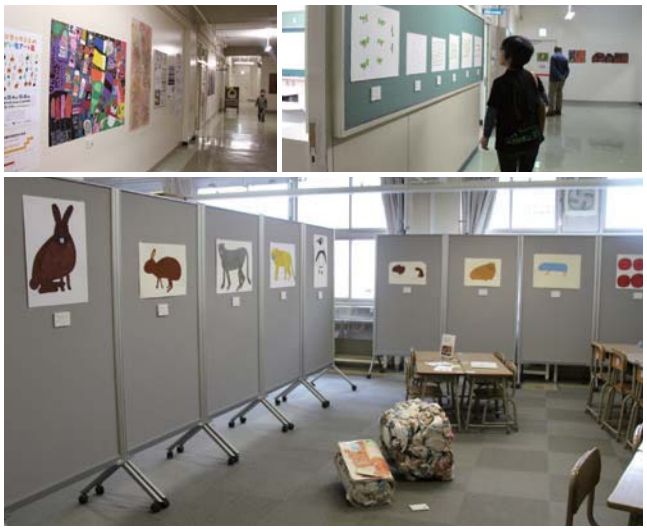
◆市民交流－展示グループの活動

1.事業計画

1）展示什器の準備；展示台などを準備するため予算の確保、制作に向けての準備を整える。
2）展示企画要領の作成
3）展示の実施

2.主な活動

1）展示企画要領を作成した。
2）企画展示「『学び舎』で考える障がい者アート展」を実施した。
日　時：平成27年12月4日(金)～26日(土) 10:00～17:00(最終日は16:00 まで、日・月・祝日は休館)
場　所：札幌市立大学 COC キャンパスまちの学校
対　象：一般市民
内　容:「アートセンターあいのさと」「ともに福祉会」の作品展示。
連動企画：講演、パネルディスカッション「『学び舎』で考える障がい者アートから地域創生へ～多セクター連携による障がい者アートプロダクツの未来へ～」が 12 月 5 日（土）に開催された。



企画展示「『学び舎』で考える障がい者アート展」

3.評　価

展示を行う際の条件や手続等に関する「展示要領」を作成することができたため、今後教員や学生等の展示を実施していくことができる。

Ⅳ　今後の課題

1）コミュニティカフェ運営のアドバイスは平成27年度で終了の予定であったが、次年度すぐに市民によるカフェ運営をスタートすることは課題が多いため、アドバイザーの継続について検討の余地がある。
2）図書等の受け入れ再開のためには、書籍登録体制の充実と書架の増設が必要である。さらに図書以外の視聴覚関係資料・機材の整備と利活用の推進、広報の充実が重要である。また、来室者数増加のための方策の検討が急がれる。
3）各種ゲームや遊びは、気軽に参加ができ、多世代の交流も図れるため継続して実施して行きたい。しかし、教員や学生の企画だけでは回数も限られるため、企画・運営に市民の協力を得ていく方法を考える。
4）「ばくりっこ掲示板」を設置したが、今後想定外の課題が発生した場合は、丁寧に見直し市民に喜ばれる掲示板にしていきたい。また、市民のサークル活動やワークショップ等を取り入れて地域交流を充実させたい。
5）展示について、学内からの持ち込みの企画では学生の企画展示など、展示のバリエーションを増やす試みが必要である。また、地域住民からの展示企画が持ち込まれるよう、周知を充実する必要がある。

3.3 学び舎企画推進チーム〈SCUまちの先生〉班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：金子 晋也
メンバー：【デザイン学部】石崎 友紀・上田 裕文・杉本 達應
【看護学部】川村 三希子・工藤 京子・小田嶋 裕輝・横川 亜希子
（旧メンバー：菊地ひろみ・櫻井 繭子・坂東 奈穂美）

Ⅰ　本班の平成27年度の事業概要・目的

市民と大学教員による「まちの先生」運営委員会を立ち上げ、講師となる住民の企画募集と、「まちの先生」の夏季・秋季・冬季講座を実施する。

Ⅱ　本班の平成27年度の役割

平成27年度の役割は、COC事業終了後も地域住民が主体となって「まちの先生」を継続するための仕組みを整理することである。そのため、「まちの先生」憲章を定め、その内容をもとに本学教員と市民委員による「まちの先生」運営委員会を結成した。また、講座募集については、企画募集要項と企画書によっておこなった。さらに、講座開講にあたっては、班のメンバーが企画運営のサポートを行う体制を取った。

平成27年度の担当者：

・「まちの先生」運営委員／委員長：金子晋也　委員：中田亜由美、藪谷祐介

・「まちの先生」講座のサポート教員：石崎 友紀・川村三希子・上田裕文・工藤京子・杉本達應・小田嶋裕輝・横川亜希子

本学教員と市民委員による「まちの先生」運営委員会

Ⅲ　平成27年度の活動

1.事業計画

1）市民と大学教員によって構成される「まちの先生」運営委員会を立ち上げる。

2）「まちの先生」夏季・秋季・冬季講座の募集と実施をする。

2.主な活動

1）「まちの先生」運営委員会の運営

まちの先生班、COC特任教員から、運営委員会の構成員3名を選出し、市民構成員3名と共に月に1回（5、6、7、9、10、11、12、1、2、3月）、委員会を開催した（平成27年度全10回）。運営委員会は、まちの先生班が制定した会則に基づき開催した。委員会では、まちの先生憲章の制定や、企画募集要領の制定、応募のあった企画内容の選定を行った。

2）平成27年度「まちの先生」夏季･秋季･冬季講座の募集

夏季・秋季・冬季合わせて、17講座の企画の応募があった。うち4講座は企画者より企画取り下げの希望があり中止となった。

3）平成 27 年度「まちの先生」の開講

まちの学校オープニングイベント・夏期・秋期・冬期講座合わせて、14講座の開講を予定した。そのうち、10講座を開講し、4講座は催行人数に至らず、中止となった。開講した講座は次の通りである。

◆まちの学校オープニングイベント

・今に活きる歴史と伝統の創る世界
　日時：平成27年5月9日
　講師：角幸博氏　参加人数：30名

◆夏季講座（全1講座）

・きみも科学者になろう！
　「ウーブレック～科学者は何をする人なの？」
　日時：平成27年7月18日
　講師：平松大樹氏/佐藤千佳子氏　参加人数：8名

◆秋季講座（全2講座）

・若さの秘訣はお口から
　日時：平成27年10月24日
　講師：津金澤秀樹氏　参加人数：10名

・自分たちの居場所を、自分たちでつくる。リノベーション、セルフビルド。

日時：平成27年11月7日
講師：三木万裕子氏／佐藤圭氏 参加人数：27名

◆冬季講座（全6講座）

・地球環境を考えた、冬暖かく夏涼しいお部屋づくりのポイント
日時：平成28年2月20日
講師：佐藤千佳子氏　参加人数：6名

・三味線の音色にのって北海道・日本の民謡を楽しむ 全2回
日時：平成28年2月27日、3月4日
講師：佐藤裕子氏　参加人数：24名（2/27）、13名（3/4）

・口からいつまでも美味しく食べるための健口体操
日時：平成28年3月5日
講師：源間隆雄氏　参加人数：7名

・春のストレッチ体操
日時：平成28年3月24日　講師：高羅正則氏

・札幌軟石のある暮らし
―南区の地域資産を活かしたまちづくり―
日時：平成28年3月26日　講師：小原恵氏

4）「まちの先生」報告会の開催

「2015年度COC成果発表会」の中で、今年度の「まちの先生」の報告会を運営委員会主体で実施した。また、次年度の予定についても告知を行った。
日時：平成28年2月27日
参加人数：14名

5）全学FD 研修会の企画開催

「まちの学校」の参考事例として「シェア奥沢」を取り上げ、地域の拠点として、どのようにその場が作られたか、具体的にどのように運営されているか等について今後の運営のあり方を学ぶことを目的に、全学FD 研修会を企画開催した。

・テーマ「地域間連携による、多世代共創コミュニティづくり」
日時：平成27年9月25日
会場：COCキャンパスまちの学校　講堂
講師：堀内正弘氏（多摩美術大学教授、シェア奥沢代表）
FD参加人数：14名／市民・学生の参加人数：16名

3.評　価

事業計画の項目を実施し、本年度の目的は達成したといえる。「まちの先生」運営に向けた住民参加の運営委員会を開催し、市民構成員によって企画の協議、運営委員会の体制に関する議論がすすめられている。具体的な運営委員会の体制については次年度へ引き継ぐこととした。

Ⅳ　今後の課題

次年度以降の「まちの先生」運営委員会の体制を確立し、市民構成員による自立した運営に向けた準備をする。また、講師人財の発掘や講座の運営方法、広報の方法について引き続き検討、整備していく。

「きみも科学者になろう！」夏季講座

「若さの秘訣はお口から」　秋季講座

「自分たちの居場所を、自分たちでつくる。リノベーション、セルフビルド。」秋季講座

「三味線の音色にのって北海道・日本の民謡を楽しむ」　冬季講座

3.4 学び舎推進チーム〈 まちの健康応援室 〉班

チームリーダー：酒井 正幸
代表幹事：斉藤 雅也
幹事：菊地ひろみ
メンバー：【デザイン学部】齋藤 利明・松永 康佑
【看護学部】小田 和美・原井 美佳・近藤 圭子・坂東 奈穂美

I　本班の平成27年度の事業概要・目的

「まちの健康応援室」班は、地域の方々が生涯にわたり、健康で、楽しく、生きがいがもてる状態である「ウェルネス」支援に向けた取り組みの一環として、地域の方々の健康や生活に関連したニーズに応える活動を行う目的で、平成27年度から本格的な活動を開始した。看護学部をもつ本学の専門性を活かし、地域の有資格ボランティアと大学教員が協働して「まちの健康応援室」を立ち上げ、COCキャンパスを拠点にして、週に3～4日間の相談活動を継続している。本班の事業目的は、地域の方たちが気軽に立ち寄って健康や暮らしの相談ができる場所を作り、地域の保健ネットワークのひとつとして機能することである。

II　本班の平成27年度の役割

COCキャンパスがある札幌市南区は、札幌市内で最も高齢者割合が高く、健康寿命の延伸、介護予防のニーズが高い地域である。「まちの健康応援室」の対象を、前期・後期高齢者、高齢者の家族、在宅介護にあたっている方と想定し、「健康上の不安がある」、「健康チェックを受けたい」、「治療や病院等について情報が欲しい」、「介護の悩みを話したい」といったニーズに応え、健康チェックや健康相談、介護に関わる相談等を通じて、地域ネットワークのひとつとして機能することを役割とした。また、同じ建物内に学童保育や子育て支援センターがあることから、子育て中の方からの相談への対応も健康応援室の役割と捉えた。

本班の活動は、本学看護学部教員と、保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの専門資格をもつ有資格ボランティアの協働によって相談への対応体制をつくり、健康応援室の運営にあたることに特色がある。平成27年度末現在、16名の有資格ボランティアが登録し、各々月に1～2回担当して地域の方たちの相談や健康チェックにあたっている。現役世代で仕事に就いている方から退職後の方まで年代は幅広く、ボランティア活動を通じて活発な交流が図られている。医療福祉専門職の資格を活かした地域貢献活動は、地域包括ケアシステムにおける地域ボランティア活動のひとつの形態といえる。

III　平成27年度の活動

1.事業計画

平成27年度秋のオープンに向けて、運営体制の整備、活動環境整備、有資格ボランティアの募集および登録、ボランティア講習の実施、開室に向けた広報活動、南区保健福祉部および南区地域振興課等の関係機関との連絡・調整を計画した。

9月30日にオープンした後は、活動を軌道に乗せることを目標として、3か月ごとに活動を評価し、必要に応じて見直しを計画した。また、有資格ボランティアの増員を計画した。ボランティア間の親睦を図り、活動方法の改善点について意見交換するためにボランティアミーティングを計画した。平成27年度内に、通常の健康応援室活動に加え、地域に出向いて相談活動を行うアウトリーチ活動を1回程度行うことを計画した。

表1：平成27年度活動計画

項　目	概　要
1）活動環境整備	断熱工事・室内改装、健康チェック機器設置、什器整備、通信手段の確保など
2）有資格ボランティア	募集要領・広報、説明会、登録、ボランティア講習、ボランティアミーティング
3）活動体制整備	活動シフト、ボランティア連絡表、活動手順書、記録用紙、来室者への説明・配布資料収集、南区内医療機関・福祉機関リスト
4）関係機関との調整	南区保健福祉部、南区地域振興課、まちづくりセンターなど
5）活動実績の評価と改善	3か月ごとの評価と見直し
6）アウトリーチ活動	南区内健康イベント等への参加

2.主な活動

1） 活動環境整備：本班の活動予定場所が元の家庭科準備室だったため、冬期間の室内の寒さ対策と、地域住民が来室して寛げる環境づくりが課題となった。そこで、デザイン学部教員の協力を得て床面の断熱工事を施行し、室内の棚や壁の加工や給湯ボイラーの目隠しなどを行った。また、ホスピタルアートに関心あるデザイン学部学生による壁の装飾を行った。

来室者の健康チェックに使用する計測機器として、健康応援室に自動血圧計（オムロン 健太郎）、手動血圧計（テルモ エレマーノ）、骨密度測定器（骨ウェーブ）、体組成計（タニタ DC-320）、握力計（ニホンメディックス MG-4010）、足指力計測器（日伸産業チェッカーくん）を設置した。また、健康応援室専用パソコンとプリンターを設置した他、外部機関との通信用に携帯電話を設置した。

図1：「まちの健康応援室」室内

2） 有資格ボランティア：「まちの健康応援室」の活動には有資格ボランティアの参画が不可欠であったため、保健医療系国家資格、福祉系国家資格、介護支援専門員の資格をもち、本事業に賛同する方を有資格ボランティアとして募った。広報誌による募集、説明会を経て、10名の有資格者が「まちの健康応援室」ボランティアとして登録し、9月30日より活動を開始した。さらに、北海道看護協会の協力を得て、同協会の「まちの健康応援室」ボランティア登録者に募集ちらしを郵送してもらうなどしてボランティアを募った結果、平成27年度末の時点で16名の有資格ボランティアが登録している。

活動にはボランティアと教員とのチームワークが重要なので、3か月に1回のボランティアミーティングを行って、ボランティア間の親睦を図ると共に活動方法の改善点について意見交換を行っている。

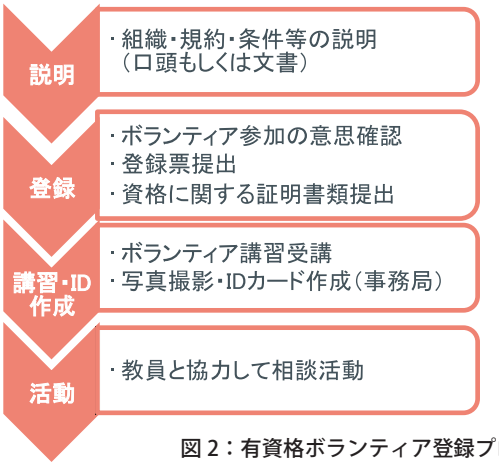


図2：有資格ボランティア登録プロセス

3） 活動体制整備：「まちの健康応援室」の開室を、火曜日から土曜日の13：00～16：00（祝日・年末年始を除く）とした。教員・ボランティア共に1～2回／月程度の活動回数となるよう班長が担当日を調整している。2名一組の活動となるため、教員の授業や実習等、ボランティアの活動可能日によって不定期に休みとなることから、毎月「開室カレンダー」を作成して近隣に広報している。活動開始にあたって「活動要領」を作成して活動のルールを定めると共に、「相談記録」、「日報」の保管・管理方法を定めた。相談の際の資料として「説明・配布資料集」、「南区内医療機関・福祉機関リスト」を整備した。

図3：
「まちの健康応援室」
チラシ・開室カレンダー

4） 関係機関との調整：活動の初期段階から、南区保健福祉部との連携に向けた調整を行った。保健福祉部から各地区の健康関連のイベント情報の提供を受けた他、保健福祉部が所掌する会議に出席し、「まちの健康応援室」を告知する機会を得た。相談に対する助言に参照する資料として保健福祉部が保有している資料の提供を受けた。南区地域振興課の協力を得て、各地区のまちづくりセンター、連合町内会に「まちの健康応援室」と、健康イベント等でのアウトリーチ活動について広報する機会を得た。

5） 活動実績の評価と改善：9月30日の開室以降、週3～4日、ひと月に12～13日前後開室している。来室者は平成28年1月末でのべ152人で、定期的に健康チェックや健康相談を利用するリピーターの来室も増えている。

相談内容は、「健康チェック」と生活のアドバイスを求めるものが最も多い。

まちの健康応援室 気軽に

市立大開設、地域住民に助言

札幌市立大は30日、札幌市南区真駒内の「札幌市立大COCキャンパス まちの学校」内に、同大看護学部の教員らが地域住民の健康相談に乗る「まちの健康応援室」を開設した。初日から高齢者が訪れて体重や血圧を測定してもらい、健康的な生活を送るアドバイスを受けた。

同大は、高齢化の進む地域住民の健康増進に役立とうと応援室の開設を決めた。利用は無料で、看護師や保健師のボランティアと教員や学生が常駐し、血圧や骨密度を計測したり、健康や介護関連の相談を受けたりする。

30日は開室セレモニーを行い、同大の中村惠子副学長が「学生や教員にとっても生きた学習の場になる。気軽に利用してほしい」とあいさつ。足の筋肉量を測定した南区の無職蝦名長治さん82は「外出のついでに寄ることができそう。また来たいですね」と話していた。利用時間は原則として火～土曜日の午後1時～5時。ただし、スタッフの都合で休む場合があり、事前に確認を呼びかける。問い合わせはまちの学校事務局☎596・6673へ。（鹿内朗代）

「まちの健康応援室」で体重を計測する来場者（右）

図4：北海道新聞　2015年10月1日掲載

表2：「まちの健康応援室」来室者数

月	開室のべ日数（日）	来室者のべ人数（人）	1日あたり来室者数（人）
10月	18	67	3.7
11月	13	32	2.5
12月	13	32	2.5
H28年 1月	12	21	1.75

図5：「まちの健康応援室」相談中の様子

6） アウトリーチ活動：1月下旬に南区内の健康イベントに「まちの健康応援室」として参加した。ボランティア3名、教員2名がCOCキャンパスから計測機器を持参して地区センターに赴き、骨密度・体組成・足趾力測定を実施し、相談コーナーを担当した。当日は大勢の地域住民が訪れ盛況だった。平成27年度は計2回の出張活動を予定している。

図6：藤野地区への出張活動

表3：平成27年度活動経過

時 期	活 動
H27年 4月20日（月）	第1回 仮称）SCUまちの保健室WG会議
5月 9日（土）	「仮称）SCUまちの保健室」プレ開室
5月12日（火）	第2回 仮称）SCUまちの保健室WG会議
6月12日（金）	第3回 仮称）SCUまちの保健室班会議
7月14日（火）	第4回SCUまちの保健室班会議
7月28日（火） 31日（金）	まちの健康応援室有資格ボランティア説明会 有資格ボランティア登録開始
8月7日（金）	第5回SCUまちの健康応援室班会議
8月19日（水）	南区地域ケア会議出席
9月 3日（木）	ボランティア講習会
9月16日（水）	第6回SCUまちの保健室班会議
9月18日（金）	北海道看護協会訪問ボランティア募集ちらし送付依頼
9月30日（水）	「まちの健康応援室」オープニングイベント
10月14日（水）	第7回SCUまちの保健室班会議
11月16日（月）	第8回SCUまちの保健室班会議
11月26日（木）	南区保健福祉部との会議
12月15日（火）	第1回ボランティアミーティング 第9回SCUまちの保健室班会議
H28年 1月18日（月）	第10回SCUまちの保健室班会議
1月27日（水）	第2回藤野地区福まち研修会参加（出張活動）
2月8日（月）	第11回SCUまちの保健室班会議

3.評　価

平成27年度は、「まちの健康応援室」の開室準備と立ち上げ、活動を軌道に乗せることを目標とした。有資格ボランティアの参画、活動体制づくり、「南区健康まつり」に合わせたオープニングイベントの実施、開室後の利用者実績等から、平成27年度の活動目標は達成したものと判断する。開室3ヶ月で100名を超える方々が利用し、定期的に来室するリピーターも増加している。

当初、来室者を高齢者および高齢者の家族、在宅介護にあたっている方、子育て中の方を対象と想定したが、相談記録から推察すると、健康応援室に足を運ぶことのできる健康状態、健康応援室を活用するモチベーションのある方が多く来室されていた印象がある。南区は広域であり、真駒内地区を拠点とした活動は限定的にならざるを得ない。健康応援室に足を運ぶ事が困難な方、潜在的にニーズを持っている方に、「まちの健康応援室」の活動をどのように届けるかについて、検討する必要がある。平成28年1月からは、助産師資格をもつ看護教員が月に1回健康応援室を担当することとなり、産後の健康相談などのニーズを持つ母親の利用が期待される。

アウトリーチ活動は、平成27年度内に試験的に1回程度実施することを目標としてきたが、1月に行われた藤野地区の出張活動に加え3月にも出張活動の要請があり、当初の目標を超える活動実績となる見込みである。

旧小学校施設内にある「まちの健康応援室」について、場所のわかりにくさを指摘する意見が聞かれている。加えて、冬期間は室温保持の関係から入り口の戸を閉めている事が多く、健康応援室への入りにくさも課題である。「まちの健康応援室」を親しみやすく立ち寄りやすくすると共に、相談活動においても新しい情報や視点を追加して、活動内容を一層充実させていく必要がある。

利用者の増加と共に、記録の管理・保管方法を含む運営方法について、適宜改善していく必要がある。

Ⅳ　今後の課題

今後の課題として、以下の5点を挙げる。

1）「まちの健康応援室」の活動をより一層充実させると共に、地区の健康イベントへの参加や、本班が独自で行う健康講座の開催などのアウトリーチ活動を積極的に行う。このことにより、COCキャンパス近隣以外の方々のニーズに応える活動に近づける。

2）　運営体制や活動方法、環境面等について、ボランティアと意見交換を重ね、教員・ボランティア共に活動しやすい方法を検討する。

3）　ボランティアは、保健師、看護師、助産師以外に、薬剤師、管理栄養士、精神保健福祉士、介護支援専門員といった資格を有するボランティアがいる。これら人材を活用してより専門的な相談活動が行えるように活動方法や体制を検討する。

4）　地域の方たちが親しみやすく、立ち寄りやすい健康応援室づくりを行う。

5）　COC活動の終了時に向けた体制づくりとして、ボランティアの組織化およびリーダー発掘が必要である。現状教員が行っている部分を段階的にボランティアに移譲すると共に、COC事業終了後の体制づくりのための準備が必要である。

4. 広報企画推進チーム

チームリーダー：吉田 和夫
代表幹事：柿山 浩一郎
メンバー：【デザイン学部】安齋 利典・大渕 一博・石田 勝也・須之内 元洋
【看護学部】宮﨑 みち子・猪股 千代子・三上 智子・田中 広美・石引 かずみ

Ⅰ　本チームの平成27年度の事業概要・目的

本チームは、「教育改革推進チーム」「研究企画推進チーム」「学び舎企画推進チーム」が推進する事業を、地域・社会へ繋げるための支援を目的としている。主に、他チームの活動の記録、成果の社会への発信を行う。

Ⅱ　本チームの平成27年度の役割

平成25年度には、本事業の記録・広報のあり方を検討し、具体的な運用の仕組みを構築した。平成26年度には、平成25年度に構築した運用の仕組みに基づき、本事業の活動の実際の記録、ホームページや印刷物を用いた広報（情報発信）を行った。平成27年度は、本事業の中心的な場となる「COCキャンパス」の運営を開始したが、主にCOCキャンパスでの活動にまつわる情報発信を行うことが平成27年度の本チームの役割であるとした。

Ⅲ　平成27年度の活動

1.事業計画

本年度、本チームに与えられた役割をもとに、具体的に以下の項目について活動を行うこととした。

（1）催事イベントの運営
（2）広報活動
（3）広報WebSiteの運用・改善
（4）映像による記録
（5）COCキャンパス内のサインデザイン
（6）平成27年度報告書の作成

2.主な活動

（1）催事イベントの運営

1）COCキャンパスまちの学校 オープニングイベントの企画運営（平成27年5月9日）

平成27年5月9日より、本学COCキャンパス まちの学校がオープンした。このオープンに先立ち、オープニングイベント「まちの学校にあつまれ！」の企画運営を行った。具体的には、広報用のチラシ（北海道新聞での折り込み）作成、札幌市記者クラブへの投げ込み、会場内のサインの設計と設置、来場者アンケートの整備、当日の会場設営、来場者の案内、イベントのスチル撮影等を行った。

図１：「まちの学校にあつまれ！」新聞折り込みチラシ

2）みんなでみに区る 健康まつり2015の企画運営（平成27年9月30日）

札幌市南区のイベントである「みんなでみに区る 健康まつり2015」の午後の部として、本学COCキャンパスにて「まちの健康応援室 開室イベント」の企画運営を行った。具体的には、会場内のサインの設計と設置、来場者アンケートの整備、当日の会場設営、来場者の案内、イベントのスチル撮影等を行った。

図２：「みんなでみに区る 健康まつり2015」午後の部 イベントスケジュール

3）平成27年度COC成果発表会の企画運営（平成28年２月27日）

本COC事業の平成27年度の成果報告会と位置づけた「まちの学校でまなぼう！」の企画運営を行った。具体的には、広報用のチラシ（北海道新聞への折り込み）作成、来場者アンケートの整備、当日の会場設営、来場者の案内、イベントのスチル撮影等を行った。なお、本イベントは、本学COCキャンパスが設置されている「まこ×まる」にて活動している「ちあふる・みなみ」「Coミドリ」および本学が合同で実施する「まこ×まる2016」の一環として行われた。来場者数はイベント全体で約700名、本学関連イベントへは484名となり、過去最多となった。

図３：「まちの学校でまなぼう！」新聞折り込みB4チラシ

（２）広報活動

1）札幌市の「広報さっぽろ」への情報掲載

平成26年度末に札幌市南区と協議を開始した、「広報さっぽろ（南区版）」への本事業の情報掲載に関する調整を行った。幅110mm×高さ80mm程度のスペースに定期的に掲載することが可能となり、その基本グラフィックや印刷フォーマットの整備を印刷業者と共に行った。

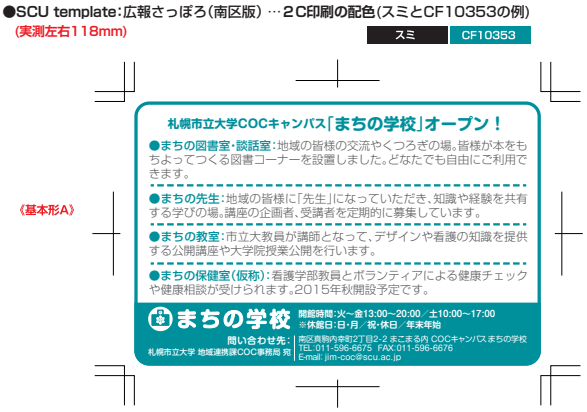


図４：「広報さっぽろ-南区版」基本印刷フォーマット

2）まちの学校新聞の発行

まちの学校の活動を、南区住民へを周知する（回覧板での配布）、南区連合町内会役員等への活動の報告を行う（10部の郵送 or 訪問配布）、文部科学省への報告を行う（札幌市の東京事務所から報告を数部の郵送にて実施）といった目的（方法）で、COCキャンパスでの活動を紹介する「まちの学校新聞」を企画した。３ヶ月に１回程度の発行とし、平成27年度は、８月、11月、12月、３月（発行予定）に発行した。

図５：地域にまちの学校の様々な活動を紹介、報告する「まちの学校新聞」第１号

3）「まちの健康応援室」の開室にあたっての広報活動

地域住民が気軽に立ち寄れる健康相談の場として、平成27年９月30日に開室した「まちの健康応援室」の広報媒体を制作した。具体的には、１.開室告知チラシ／２.開室カレンダーの書式作成／３.出張健康相談時ののぼり旗（屋外用・卓上用）のデザイン／４.室名表示サインの設置を行った。

図６：「まちの健康応援室」開室告知チラシと出張相談時用のぼり旗

4）授業成果パネルの作成

1年次のスタートアップ演習、3年次の学部連携演習はCOC事業に関連する演習科目である。平成27年度の両授業の成果を集約し、展示発表用のパネル作成を行った。（図7、図8　p48参照）

5）メールマガジンの配信

まちの学校で開催されるイベント情報を定期的にメールマガジンとして配信することとした。配信は月に1回とし、COCキャンパスで実施されたイベントでのアンケートに「今後の情報配信を希望する」と回答した方々に配信することとした。平成27年度は、11月、12月、1月、2月、3月（予定）の配信を実施した。

（3）広報WebSiteの運用・改善

1）Webの更新・改善に関して

平成25年度の成果として、本COC事業のWebSiteを作成し、平成26年度には運用を行いながら微修正を重ねた。平成27年度は、サイト構造の見直し（図9）を中心に、以下のような更新・改善を実施した。

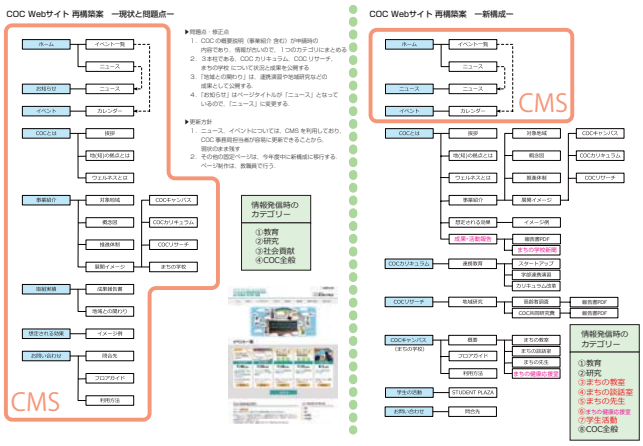


図9：サイト構造の検討（サイトマップ案比較図）

1.本学HPのトップページのバナーを平成27年5月のCOCキャンパスオープンに合わせ、オープン前後のバナーを制作、公開した。／2.COCのWebページのトップページを、COCキャンパスのオープンに合わせキャンパス内で行われるコトをイメージで伝えられるものに変更した。／3.平成26年度の報告書のPDF版を公開した。／4.COCキャンパスへのアクセス、フロアマップ等の情報を掲載した／5.「地の拠点整備事業」に関する説明を追加した。／6.推進体制図の更新を行った。／7.Websiteの構成の変更を行った（本事業開始当時の骨子により構築されていたが、具体的な活動が行われている現状に即するサイト構造の変更を検討し実施した）。／8.Websiteに記事を投稿する際のアカウントを、組織変更にあわせて更新した。（図10）／9.本学本体Websiteのトップページからの本COCWebへのリンク構造の検討を行い改善した。

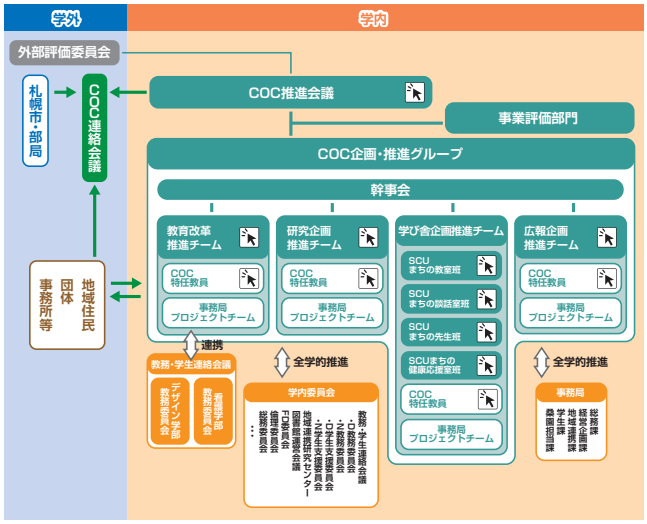


図10：更新された組織体制図

（4）映像による記録

本事業では平成25年度に、教育（カリキュラム）改革を重要な目的の一つとしていることから学生への教育を目的とした教材の作成のための記録、加えて、本事業の実施報告を目的とした記録、を2大方針として、映像／静止画による記録を行うこととした。

表1：平成27年度撮影実績　　3月11日現在

撮影番号	イベント名	担当班・チーム名	日時
1	COCキャンパスオープニング	教育改革推進チーム	平成27年5月9日
2	スタートアップ演習（成果報告会）	教育改革推進チーム	7月17日
10	まちの談話室班①（カフェ＝お試しシェフ）	まちの談話室	9月12日
14	まちの先生① 全学FD（一般市民へも周知）：堀内正弘氏講演会	まちの先生班	9月25日
3	まちの健康応援室オープン（健康まつり）	まちの健康応援室班	9月30日
4	学部連携演習（バス運行日10月20日）	教育改革推進チーム	10月20日
15	まちの先生② 秋開講：「若さの秘訣はお口から」津金澤秀樹さん	まちの先生班	10月24日
11	まちの談話室班②　ハロウィン企画　小宮講師 「Trick or Escape　～オバケからの挑戦状～」	まちの談話室班	10月31日
8	まちの教室② 「学び舎」で考える障がい者アートから地域創生へ	まちの教室班	12月5日
7	まちの教室① 「昆虫のデザインPartⅡ」酒井教授	まちの教室班	12月19日
5	学生によるお試しシェフ企画	まちの談話室班	12月20日
6	学部連携演習（成果報告会）	教育改革推進チーム	平成28年1月12日
9	まちの教室③ コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える第2回	まちの教室班	3月26日
12	まちの健康応援室① ボランティアミーティング	まちの健康応援室班	3月9日
13	まちの先生③　冬企画 札幌軟石のある暮らし	まちの先生班	3月26日
16	まちの先生④　冬企画 春のストレッチ体操	まちの先生班	3月25日
17	年度末COC発表会①　午前	広報企画推進チーム	2月27日
18	年度末COC発表会②　午後	広報企画推進チーム	2月27日

平成26年度は以上の方針に即しての映像／静止画による記録を実施したが、平成27年度は、予算削減の関係から、映像による撮影のみを外部業者に依頼して実施し、静止画による記録は内部スタッフで実施することとした。

また、年度当初より、COCキャンパス内でのイベントが多数行われることが想定され、映像による記録を実施するイベントの検討が必要となったが、広報企画推進チームで把握しているイベントを撮影計画として毎月の幹事会にて他班に提示し、撮影希望を募る方式とした。具体的には表1のように、映像による記録を実施した。

（5）COCキャンパス内のサインデザイン

平成27年5月より真駒内緑小学校に本学COCキャンパスがオープンしたが、平成26年度末に、簡易な教室名表示、トイレ誘導表示等を設置し、実際の運用をしながらサイン計画を進めることとした。約1年間の運用を経て、「WiFi利用に関する利用掲示」といった具体的な掲示物を手作りで整備し、平成27年度末には正式な教室名表示を取り付ける等のプロセスを経て、館内サインの整備を行った。

図11：新たに整備された館内誘導サイン

（6）平成27年度成果報告書の作成

1）平成27年度成果報告書の寄稿依頼

平成25年度、平成26年度同様、本事業の成果報告書をまとめることとした。昨年度の寄稿依頼に際し、特段の問題がなかったことから、執筆時のフォーマットとなるファイルを追加で作成し、各チーム／各班への寄稿依頼を行った。

2）報告書の位置づけ検討

本COC事業は平成27年度末の段階で2年半（3年目の終了）であり、かつ、COCキャンパスがオープンし、具体的な市民との活動が行われるといった成果が数多く生まれる年度であった。本成果は、地域の住民の皆様、関係機関に広く周知する必要があるとし、年度内での関係各所への配布を目的に作成することとした。

図12：平成27年度報告書表紙

3）成果報告発表用ポスターパネルの作成

平成27年度成果報告書作成に連動して、今後の発表会、イベント等で活動成果を広報周知するためのポスターパネルを作成した。高知大学主催「全国ネットワーク化事業 平成27年度COC/COC+全国シンポジウム（2/27・28）」、本学主催「平成27年度COC成果発表会（2/27）」等で使用されている。（図：13　p49参照）

3.評　価

本チームに与えられた役割は、具体的なアウトプットを求められるものであったが、一通りの成果があったと評価する。また、平成25年度に構築し、平成26年度の運用を通して構築した広報の仕組みを、「地域住民との活動を通して見えて来る課題」の観点から改善し、新たな試みが実施出来たと評価する。

Ⅳ　今後の課題

今後も本チームの役割である本事業の広報活動を継続して実施していく計画であるが、COCキャンパスの運営が開始し具体的な地域住民との関わりのある活動が活発化してきた。本広報班の活動をとおして、地域住民とのコミュニケーションがより円滑になるような広報活動のあり方を模索していきたい。

図７：「スタートアップ演習」成果報告パネル

図８：「学部連携演習」成果報告パネル

ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

札幌市民と大学の交流の拠点として
札幌市立大学 COC キャンパス「まちの学校」を開設

《平成27年度の取組》

I. 教　育：「スタートアップ演習」（1年次）及び「学部連携演習」（3年次）を従来通り実施。加えて、段階を踏んで、デザイン学部及び看護学部の学生が協働して地域を知り、地域課題の体感・発見・実践できるカリキュラムの構築に向けて、「学部連携基礎論」（2年次）や「地域プロジェクト」（1年次から4年次）の開設を検討。

II. 研　究：札幌市南区を対象として、医療・健康・福祉・デザイン等の横断的な視点を持つウェルネスサイエンス研究を推進。また、「高齢者の健康に関するニーズ調査」の分析を進めた。その結果を、「まちの教室」公開講座の企画立案に活用した他、分析結果を学会等にて発表した。

III. 社会貢献：札幌市立大学COCキャンパス「まちの学校」を拠点とした公開授業・公開講座（「SCUまちの教室」）や地域住民の学び合いの場づくり（「SCUまちの先生」）、多世代・多セクターの交流事業（「SCUまちの談話室」）、地域住民の健康支援（「SCUまちの健康応援室」）を推進。

I. 教育：異分野連携による地域課題への取組

学部連携演習では、地域住民も招待し、地域課題の解決提案を口頭発表、パネル及び成果物で報告します。

《学部連携演習 成果物の例》
❶なんせさくん（石山地区）「石山えほんでつながるストーリー」
❷ブレッジェル体験班（澄苑地区）「ワイワイもいわ体操」～藻岩地区をもっと楽しくする体操の提案～
❸軟石（いし）を磨く者たち（石山地区）「軟石21わがつなげる人と文化」

II. 研究：地域を対象とした特色ある視点

平成27年度 COC共同研究費 採択課題

- 廃校活用を目的とした空間デザイン手法に関する研究
- 地域住民を交えたデザイン・看護合同シミュレーション教育の基礎的研究：ICT活用科目における学生の視点での言語的および非言語的評価
- 気候性地形療法に基づく定山渓地域におけるヘルスツーリズムの検討

※参考：平成26年度 COC共同研究費 採択課題

- 人生の終焉を自分らしく生ききるためのガイド —意思決定を支援する事前指示書の作成と検証—
- 市民参画型のSCU模擬患者養成プログラムの開発 —共に育み合う市民主体の学習の場づくりを目指して—
- リソースナースの地域活用による シームレスな連携体制の構築と効果の検証
- 札幌市南区における高齢者の外出困難要因の明確化
- 地域に根差した盆踊り文化の記録と継承に関する研究

盆踊り動作のアーカイブ化

III. 社会貢献：「まちの学校」を拠点とした地域住民との交流と学び

SCU まちの教室

子どもロボットづくりコンテスト WRO 札幌大会
●組み立て式の車型ロボット教材を用いたプログラミングの講座を開催。子どもたちはロボットのプログラミングに夢中になり、ロボットに対する興味を深めました。

昆虫のデザイン
●自然豊かな北海道の昆虫の多様なかたちの謎を、昆虫とヒトとのライフスタイルの比較等、多面的なデザイン視点から迫りました。

SCU まちの談話室

お試しシェフ
●まちの学校に隣接するコミュニティカフェを支援するために、地域住民と共にカフェ・ミーティングを開催。支援策の一つとして、学生がクリスマスプレートを1食500円で提供しました。

学び舎で考える障がい者アート展
●デザイン学部教授が美術史の観点から障がい者アートを紹介する「SCUまちの教室」公開講座と連動し、3週間にわたり、札幌市内に在住する障がい者の方たちの作品を展示しました。

SCU まちの先生

リノベーションやセルフビルドによる居場所づくり
●昨年度のまちの先生運営会議から生まれた地域住民のグループ「まちビル」が、変身がもてる居場所づくりについて考えることを提案した企画です。

若さの秘訣はお口から
●ブラッシング、喜怒哀楽の表情を作る「百面相」の体操、歯周病予防等について学びました。

SCU まちの健康応援室

みんなでみに区る 健康まつり
●札幌市南区保健福祉部と連携し、健康講話、健康相談、健康チェックを実施しました。

ボランティア・ミーティング
●地域の看護師、保健師などの有資格ボランティアと看護学部の教員が、健康相談・健康チェックを行うに当たり、定期的にボランティア・ミーティングを開催しています。

学び舎「まちの学校」開設
●5月9日に旧真駒内緑小学校の跡地に「札幌市立大COCキャンパス まちの学校」をCOC事業の「学び舎」として開設しました。2階には、「講堂」「まちの教室A組」「まちの教室B組」、1階には、「まちの図書室・談話室」「まちの健康応援室」「まちのホームルーム」「まちの職員室」があります。

《今後の予定（COC+を含む）》　室蘭工業大学が主幹校となるCOC+事業の参加校となり、COC事業で得た知見を踏まえ支援していく他、これまで計画していたCOC事業も可能な範囲で、継続する。

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY
●COCに関するお問い合わせ先
札幌市立大学COC事務局：札幌市南区真駒内幸町2丁目2-2 まこまる内
TEL 011-596-6675　Email coc-office@jimu.scu.ac.jp
●芸術の森キャンパス：005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目　TEL(011)592-2300　●桑園キャンパス：060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目　TEL(011)726-2500

図13：平成27年度COC成果報告発表用ポスターパネル（COC/COC+全国シンポジウム用2/27・28）

5.COC 特任教員

籔谷 祐介
中田 亜由美

I　COC 特任教員の平成 27 年度の活動目的

COC 特任教員は、事業を円滑に推進させることを目的とし、札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整をする。また、本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を展開していけるように、デザイン専門の籔谷と看護専門の中田が協力し、コーディネートする役割を担う。

今年度は、「札幌市立大学COCキャンパス　まちの学校」開設までの準備や開設後の「まちの学校」を活用した事業のしくみづくりや教員の体制を整えることを目的とし、各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力し、活動できるように、連絡・調整、企画・運営に携わる。

さらに、事業を円滑に推進させるための情報を得ることを目的とし、関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。

II　COC 特任教員の平成 27 年度の役割

1．札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整をする。
2．本事業においてデザイン学部と看護学部が協力し、互いの専門性を発揮し、事業を推進していくことができるように連絡・調整する。
3．各チーム、班が個々に活動を推進し、連携・協力し、活動できるように、連絡・調整、企画・運営に携わる。
4．異分野連携科目の深化ならびに地域課題の体感・発見に向けた新設科目の設置などの教育改革（COC カリキュラム）を推進させる。
5．COC 事業に関する研究基盤の整備、関連調査の実施、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させる。
6．SCU まちの教室公開講座・授業公開、まちの談話室による多世代・多セクターの交流、まちの先生の企画・運営を推進する。
7．「まちの健康応援室」開室までの準備や開室後の運営を推進する。
8．各種情報発信及び学内外関係者による各種会議の開催に関しての調整や準備を行う。
9．「札幌市立大学COCキャンパス　まちの学校」開設までの準備や開設後の「まちの学校」を活用した事業のしくみづくりや教員の体制を整える。
10. 事業に関連するさまざまな団体や多世代、多セクターとのネットワーク形成を行う。
11. 事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備を行う。
12. 関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。
13. 「COC STUDENT PLAZA」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援する。

III　平成 27 年度の活動

1．事業計画

1）教育改革（COC カリキュラム）の推進

(1) 異分野連携科目「スタートアップ演習」、「学部連携演習」の準備や運営、授業を担当する。

(2) 地域課題の体感・発見に向けた新設科目を企画し、提案する。

「学部連携基礎論」と「地域プロジェクト」について、学内の教員とともに検討を続けている。「地域プロジェクト」については中田が担当し、シラバスや実際の運用方法等を学内の教員とともに検討している。

2）COC 事業に関する研究基盤の整備、関連調査の実施、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させるための連絡や調整を行う。

3）SCU まちの教室公開講座・授業公開の企画・運営を推進する。

4）SCU まちの談話室による多世代・多セクターの交流の企画・運営を推進する。

5）SCU まちの先生企画講座の企画・運営を推進する。

6）「まちの健康応援室」開室準備や開室後は、運営を推進する。

7）事業に関連するさまざまな団体や多世代、多セクターと交流する機会を作り、ネットワーク形成を行う。
8）札幌市立大学COCキャンパスが入居する施設「まこまる（旧真駒内緑小学校）」の他の入居者（Coミドリ、ちあふる みなみ）と連携体制を整える。
9）事業の実施にあたり必要となる場のデザインや整備を行う。
(1)「札幌市立大学COCキャンパス　まちの学校」開設に向けて、場のデザイン・整備を行う。
(2) イベント時の場のデザインや整備を行う。
10) 関連施設や大学の視察調査や関連シンポジウム・会議参加による情報収集、関連大学の視察を受け入れ、情報交換を行う。
11)「COC STUDENT PLAZA」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援する。

2.主な活動

1）教育改革（COCカリキュラム）の推進

(1)「スタートアップ演習」や「学部連携演習」に関しては、各教員や札幌市南区地域振興課などの関連地域の関係者との連絡・調整・報告・相談を行い、演習の準備や運営を行った。また、他の専任教員とともにグループを担当し、学生の指導も行った。

中田は、「学部連携演習」初回の授業オリエンテーションで、「札幌市南区について」と題した、「地域」の概念や「札幌市南区の特徴」、「地域調査での心構え」に関するミニレクチャーを行った。

学部連携演習の様子

(2) 地域志向の新設科目設置に向けて、「学部連携基礎論」と「地域プロジェクト」について、学内の教員とともに検討を続けている。「地域プロジェクト」立案担当として、シラバスや実際の運用方法等を学内の教員とともに検討した。
(3) 平成27年度シラバスの記載内容から、本学の地域志向性科目の数と配置状況を分析した。

2）研究

COC事業に関する研究基盤の整備、地域住民を対象としたウェルネスサイエンス研究を推進させるための連絡や調整を行った。

3）社会貢献

(1) SCUまちの教室公開講座・授業公開の企画や運営を推進させるための連絡や調整を行っている。まちの学校の賑わいの創出および広報の一環として、下記の公開講座の企画・運営を行った。
・「「学び舎」で考える、障がい者アートから地域創生へ～多セクター連携による障がい者アートプロダクツの未来へ～」（平成27年12月5日）
・「手で描く、手で創るデザイン」（平成28年1月30日）
・「コミュニティ研究から、みんなの暮らしを考える」（平成28年3月5、26日 予定）
(2) SCUまちの談話室による多世代・多セクターの交流の企画・運営を推進させるための連絡や調整を行った。
①まこまる内にある「カフェまこまる」を活用した市民や学生が主体となって行う市民交流企画「お試しシェフ」の実施において、各関係者との連絡・調整を行った。また、それらの企画の場である「カフェミーティング」に参加し、協議・運営支援を行った。
②札幌の中心地をメイン会場として実施されたイベント「さっぽろハロウィン」と連携し、「まちの学校」において、市民交流イベント「Trick or Escape」を実施した。さっぽろハロウィン実行委員会と本学教員との連絡・調整、広報支援を行った。
③まこまるばくりっこ掲示板の制作において、本学教員と学生とのマッチングや掲示板・広報チラシ制作のデザイン支援を行った。
④「学び舎」で考える障害者アート展　企画・運営（平成27年12月4日～26日）
まちの学校の賑わいの創出および広報の一環として企画・運営を行った。平成27年12月5日の

SCU まちの教室公開講座「『学び舎』で考える、障がい者アートから地域創生へ～多セクター連携による障がい者アートプロダクツの未来へ～」を実施するにあたり、一般社団法人北海道チャレンジドアート＆プロダクツと連携して、アートセンターあいのさとおよびともに福祉会から利用者の作品の無償貸与を受け、まちの学校に作品の展示を行った。

(3) SCUまちの先生企画講座の企画や運営を推進させるための連絡や調整を行っている。また、まちの先生運営委員として、まちの先生のしくみを検討することや、応募された企画を協議するなどの役割を担っている。さらに、先行事例の札幌市生涯学習センター「ちえりあ」のご近所先生担当者からのヒアリングやご近所先生企画募集説明会・研修を視察し、まちの先生の理念や運営方法を検討し、まちの先生の基盤を整えるための情報収集を行った。

(4)「まちの健康応援室」開室に向けて、「SCUまちの健康応援室班」の立ち上げに関わり、広報活動やボランティア募集説明会の運営、「まちの健康応援室」の整備を行った。そして、札幌市南区の「みんなでみに区る健康まつり 2015」に参画し、午後の部として「まちの健康応援室」のオープニングイベントを行った。イベントに関して、企画の立案や札幌市南区保健福祉部関係者および学内教員との連絡・調整を行った。開室後は、札幌市南区保健福祉部や地域振興課などの地域の関係者との連絡・相談・調整・報告や広報活動を行い、「まちの健康応援室」の活動を周知し、運営を推進してくための役割を担っている。

4）広報活動

SCUまちの教室公開講座・授業公開、SCUまちの談話室の企画イベント、SCUまちの先生企画講座等各種イベントの広報を視察訪問先や関連機関等で説明し、周知を行った。また、COCの取り組みを地域住民に周知することを目的に、広報チームで制作する「まちの学校新聞」の掲載内容の情報収集、文章作成を行った。また、札幌市が発行する広報誌「広報さっぽろ」の南区版に、本学COC事業専用枠の設置に向けた交渉・調整を行い、設置後の毎月の運用を行った。

5）「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」開設準備と開設後の運営の推進

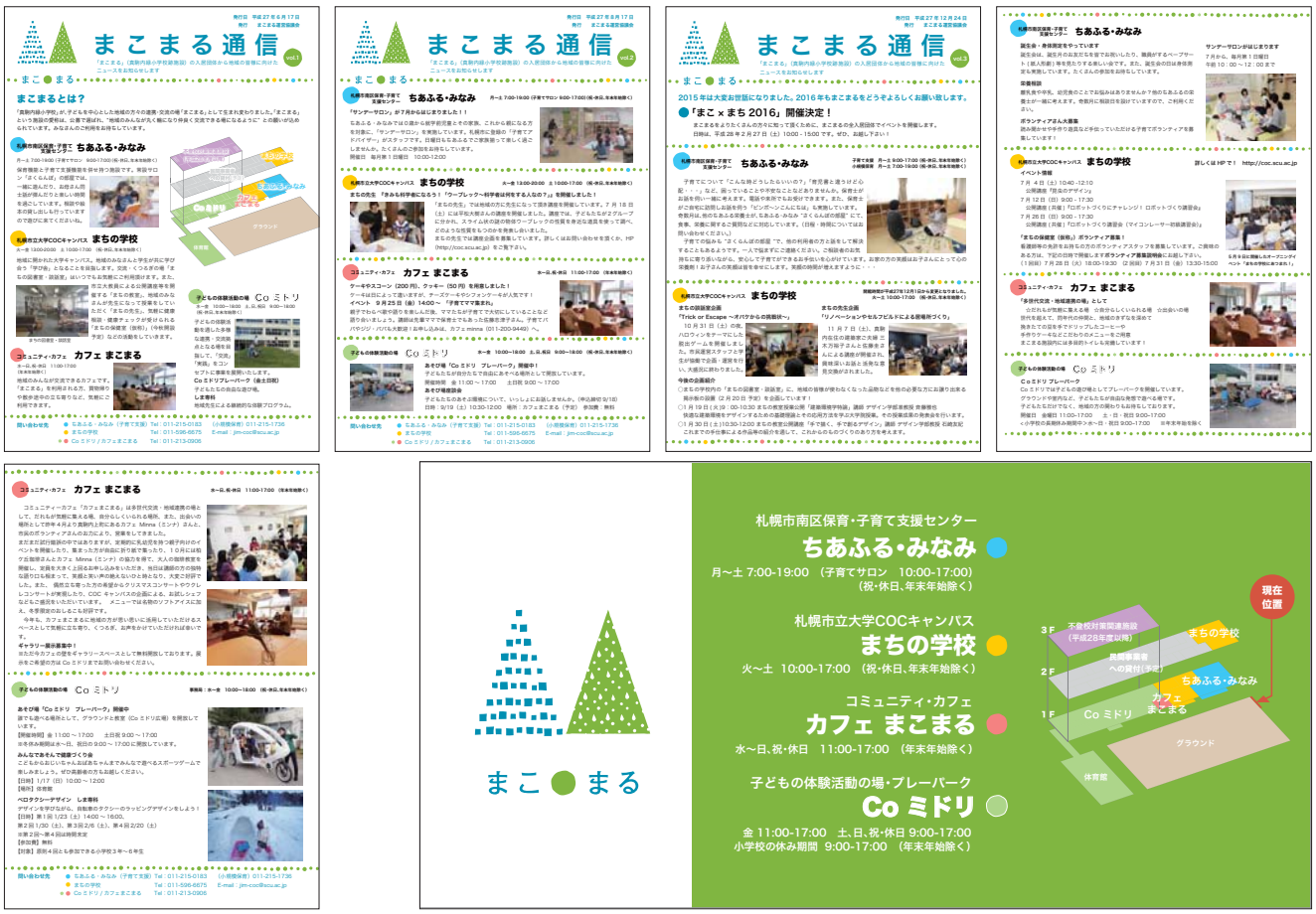
「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」開設に向けて、札幌市やCoみどり、ちあふるみなみ関係者、学内教職員との連絡・調整を行いながら準備を行った。また、「まちの学校」全体の場のデザイン・整備を行った。平成27年5月9日には、オープニングイベント「まちの学校にあつまれ！」を開催し、地域住民へ「まちの学校」の開設を周知した。イベントに関して、企画の立案や学内教職員との連絡・調整を行った。開設後は、札幌市やCoみどり、ちあふるみなみ関係者、地域の関係者との連絡・相談・調整・報告や広報活動を行い、「まちの学校」を拠点とした事業の運営を推進してくための役割を担っている。

まちの学校　まちの図書室・談話室の整備

6）まこまる入居者との連携

まこまる入居者である、Co ミドリやちあふる みなみと連携をとるため、「まこまる運営協議会」（札幌市、南区も出席）や「まこまる情報交換会」に出席し、まこまる施設全体のサインのデザイン、情報誌「まこまる通信」のデザインおよび編集、とりまとめを行った。

また、まこまる入居者が連携して施設をPRするために、「まこ×まち2016」実行委員会を立ち上げ、平成28年2月27日（土）に共同イベント「まこ×まち2016」を開催し、実行委員のメンバーとして、企画・準備を行った。



まこまる施設全体の情報誌「まこまる通信」の発行と施設サイン

7）情報収集・情報交換

(1) 関連施設視察調査

札幌市生涯学習センター「ちえりあ」ご近所先生

(2) 関連シンポジウム・会議参加による情報収集

高知大学主催「全国ネットワーク化事業 平成27年度COC/COC+全国シンポジウム」ポスターセッションに参加した。

(3) 関連大学視察受け入れ、情報交換

兵庫県立大学

8）COC STUDENT PLAZA

地域社会に貢献したいと考える学生を支援する「COC STUDENT PLAZA」に申し込みした学生たちの相談を受け、授業外での学生の主体的な社会貢献活動を支援している。登録している学生総数は、平成27年度18名（デザイン学部13名、看護学部5名）である。学生たちは、「まちの学校」のまちの図書室・談話室の整備や「まちの健康応援室」の支援、Coミドリでの遊びの支援、まちの学校でのイベントの企画などを行っている。

学生の活動（まちの健康応援室）

3．評　価

「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」開設準備や開設後の「まちの学校」を活用した事業の運営を円滑に推進させることが主な任務であった。札幌市立大学の教職員、学生、各地域関係者などと連絡・調整に努め、今年度予定の事業は無事に終了した。

Ⅳ　今後の課題

「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」を活用した本事業に関わる、地域住民はまだ少ない現状にある。「まちの学校」を知らない住民も多いため、多くの地域住民が参画され、「まちの学校」が札幌市南区および札幌市の拠点となるように、事業の運営方法について、教職員とともに検討を続けていくとともに、地域住民のニーズの把握や広報活動に力を入れ、事業を推進させていくことが課題である。また、COC事業終了後の「まちの学校」の運営方法について、引き続き検討する必要がある。

平成25年～29年度 文部科学省
「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
平成27年度成果報告書

発行日：平成28年3月23日
発　行：札幌市立大学
編　集：札幌市立大学COC広報企画推進チーム/COC事務局

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

●大学本部／デザイン学部／デザイン研究科
芸術の森キャンパス：〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目

●看護学部／助産学専攻科／看護学研究科
桑園キャンパス：〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目

【連絡先】
札幌市立大学 COC事務局（地域連携課内）
e-mail : coc-office@jimu.scu.ac.jp　Tel : 011-596-6675　Fax : 011-596-6676

＊ウェルネス（Wellness）とは？

生涯にわたり、「健康で」「楽しく」「生き甲斐がもてる」状態

http://coc.scu.ac.jp/